

シズクとぽかぽか温泉旅行に
ゝ耳元にやあにやあ♪ はむはむぺろぺろされる一日ゝ

同人音声サークル『ウラオモテ』

1. 日常的？ もぐもぐフェラチオ

昼の陽気、小鳥のさえずりが窓から聞こえる。

シズクが外から帰ってきて、リビングのドアを開ける。

《◆左斜め前/50cm》

シズク ー 「たっだいまーご主人 ♪ って……寝てる」

シズク、主人公の正面まで歩いて、顔を覗きこむ。

《◆正面/30cm》

シズク 2 「もう……座ったまま寝たら首痛めるよーって言ってるのに……くす ♪ しょうがないなあ」

端のクローゼットまで歩く。

バッグを掛けたり、上着を脱いだり。

《◆右斜め前/50cm》

シズク 3 「ん、しょ……っと」

シズク 4 「んー……今日の夜ご飯、どうしよっかなー……」

シズク 5 「ん……よし」

主人公の正面まで歩く。

膝の上に座り、そっと寝顔をうかがう。

《◆正面/10cm》 【「」から小声】

シズク 6 「（「呼吸」）……「っしゅじーん」

（左右にゆらゆら）

シズク 7 「シズクが、帰ってきましたよー」

シズク 8 「んー」

(もう一度ゆらゆら)

シズク 6 「寝すぎるのは、良くないですよー」

シズク 10 「ん〜」

《◆左耳/0c3へ移動》

シズク 2 「ご主人♪ お、き、て♪」

ゆっくりと耳を舐める。

シズク 12 「ああー……あむ♪ れえる、れろ……ちゅ」

主人公、ビクつと体を震わせて起きる。

シズク、舐めるのをやめない。

シズク 13 「ん、おつはよ、ご主人♪ はあむっ♪ れえる……れる、れろ、れえろ♪ んー？ んふふ♪ はむっ♪ れえる、はあ……れる、れる、れえる♪」

シズク 14 「もうダメ？ んー、じゃあおしまい。ちゅっ♪」

シズク 15 「ちよっと待ってて♪」

シズク、バッグから診断書を取り出す。

主人公の横に座って診断書を渡す。

《◆右/30cm》【「」から普通の音量】

シズク 19 「はい、今月の診断結果♪」

主人公、診断書を広げる。

シズク 17 「さっき病院で診てもらったんだけど……ほら「こ」！

『いたって健康』だってー」

シズク 18 「えへへー♪ 女医さんに褒められちゃったー♪」

シズク 16 「やっぱり、ツナクリームは健康なんだよ♪ 美味しいし、毎日食べても飽きないし、何より、栄養満点♪」

主人公、体重を指さす。

シズク、手で隠す。

シズク 20 「ん？ ああ、体重は見ないで……。いや、その……
ちよつとだけ……。ちよーつとだけ……。前より、増えてる」

シズク 21 「うう……。食べ過ぎは、気を付けます……」

シズク 22 「んそれよりもつ、もっと見てほしいところがあつて」

紙を裏返して、あるところを指さす。

シズク 23 「ここ。私が人間でいる時間、あと二週間くらいだつて」

シズク 24 「この日まで、またウイルスを活性化させれば、もっと
もっと、人間でいられるつてこと」

シズク 25 「うん♪ だから、また時間ができたら……」

シズク、横から抱き着く。

《◆右耳/Ocm》【ここから小声】

シズク 26 「いっぱい、交尾しよう？」

シズク 27 「くす♪ 今更恥ずかしがらないでよう。ご主人だって、
私とするの、好きでしょ？ 毎日したいくらい♪」

シズク 28 「んでもね、やりすぎは禁物だって、猫のお姉さんに言わ
れちゃった」

シズク 29 「マンネリ？ っていうのになるんだって。知ってる？
マンネリ……（頬ずり）ねりねりい……。くすくす♪」

シズク 30 「そう言われても、甘えなくなるのはしょうがないよ
ねえ」

シズク、主人公の膝をなでる。

シズク 31 「ご主人のお膝はー、私を甘やかすためにあるんだもん」

シズク 32 「ねっ」

シズク 33 「ご主人、甘えていい？」

シズク 34 「ん、ありがとう♪」

シズク、主人公の膝へ。気持ちよさそうに頼ずり。

《◆正面下/30cmへばたんきゅー》

【ここから普通の音量】

シズク 35 「ふえ〜……ああ〜……えへへ♪ あったかあい♪」

匂いを嗅ぐ。

シズク 36 「ん〜……くんくん……はあ……くんくん、くーん……

はあ〜……落ち着くう」

主人公、シズクの頭を撫でる。

シズク、思わず声が漏れる。

シズク 37 「んっ……あ……え……ご主人？ ん……まだ、頭撫でてって、んう、言っていないよっ。」

シズク 38 「んん……んっ……ああ……ん……んう〜」

シズク 39 「かわいい？ んへへ……ありがとう」

シズク 40 「はあ……う……んでも……いきなり撫でるのは、だめだよお……っ。」

心地よさそうな声。

シズク 41 「ん……うう……あ……はああ……あ、そこっ……そこそこ……っ♪ んへ……ん……んう……きもちい……っ。」

シズク 42 「ん……ん……んん……はあ……ああ……ん……ん〜っ。」

シズク 43 「私も、お返し……っ。」

シズク、ベルトを外し、チャックを開けて、中を
まさぐる。

シズク ㊦ 「ん、しょ……いひひ、動いちゃだーめ♪ 今日まだ出し
てないでしょ？ 任せてよ……ん……ん」

男性器が外に出る。

シズク ㊧ 「（小声）あは、かわいい♪」

シズク、そつと匂いを嗅ぐ。

シズク ㊨ 「んー……くんくん……くんくん……ん？ くんくん……
あ、もしかして、シャワー浴びた？」

シズク ㊩ 「うん、いい匂い♪」

シズク ㊪ 「でも……くんくん……えへへ、ご主人の匂いも、ちやー
んと残ってる♪」

シズク ㊫ 「ねえ、もつとくんくんさせて♪」

シズク ㊬ 「もつと近くで……お鼻をくつつけてー」

間近で匂いを嗅ぐ。なぜか甘い鳴き声が漏れる。

シズク ㊭ 「くんくーん……んみゃあ」

シズク ㊮ 「あれ？ 鳴き声出ちゃった」

シズク ㊯ 「ん……くんくん……みゃあ……くんくん……みゃあ〜」

シズク ㊰ 「あはは♪ わざとじゃないよ？ くすっ♪ ほん
とっ♪」

シズク ㊱ 「この匂い嗅ぐとねー……くん……みゃ……くんくん……
みゃあ〜、あははは♪ 変なのー♪ くすくす♪」

シズク ㊲ 「ん、ふざけてないもん♪ おちんちんが悪いんだ
よーっ。」

シズク、いつの間にか夢中になっている様子。

シズク ㄟ
「うん♪ おちんちんが、いい匂いするからっ……はあ、くんくーん……みゃーう……」ご主人の匂い……♪」

シズク ㄱ
「くんくん、くーん……みゃあ」

シズク ㄴ
「あへへ……ピクピクしてる」

シズク ㄷ
「おちんちんさん、私に食べられたいのかな」

シズク ㄹ
「くんくん……みゃーう」

シズク ㄺ
「あは、またピクってした♪」

シズク ㄻ
「ん、私も早く啜えたい……匂いだけじゃ、やだよお」

シズク、上目遣いで問いかける。

シズク ㄽ
「はあ……はあ……いーい？」

シズク ㄾ
「うん♪ いただきまーす♪」

シズク、飴を舐めるようにゆったりと男性器の先を舐める。

シズク ㄿ
「はあ……ん……ちゅぶ、れる……ん♪ ちゅぶ……

はあ……れえる、れる……れる……ちゅ」

シズク ㅀ
「ん、おいし」

シズク ㅂ
「んちゅ……れる、れる……れえろ、れる……ちゅ、ちゅ……はあ、れえる、れろ、れる……ちゅぱ」

シズク ㅄ
「あれー？ ご主人の手、止まつてるー……ちゅぶ、れる……さつきはご主人から、撫でてくれたのにな……れえる、れる、れる」

主人公、なでなで再開。

シズク ㅆ
「んっ……んへへ……なでなでありがと♪ れえる、ちゅぶ……みゃー、ああむ♪ ちゅぶ、れえる、みゃあう♪」

シズク 71 「んふふ、ご主人に撫でられてると、ちゅぷ、みゃあ♪
あっへへ、鳴き声、我慢出来ない♪」

シズク 72 「んみゃあ♪ ああむ♪」

(50秒。時折鳴きながら、ゆったりフェラ)

シズク 73 「れる、れる……みゃあ、あむ(★50秒)」

シズク 74 「んあ……そういえば、もうこんな時間……ちゅぷ、ちゅぷ」

シズク 75 「ねえご主人、ちゅぱ……夜ご飯、何作ってほしい？
ちゅ……れるれるれる」

シズク 76 「おまかせ？ 逆に迷っちゃうなあ……あむ、れる、
ちゅ……れる……れるれる……ちゅぱ」

シズク 77 「んー……ちゅぷ……あ、ご主人……ちゅぷ、ハンバーグ
好き？ れる、れる……ちゅぱ」

シズク 78 「病院で、女医さんと料理の話になってね……ちゅぷ……
ハンバーグは、間違いないって……れる、ちゅぷ」

シズク 79 「んふふ♪ じゃあ、今日はハンバーグ♪ 後でお買い物
しよう。」

シズク 80 「はあーむ……あむあむ……れるれる……んー、想像した
ら、お腹空いてきちゃった……あむ……れるる、ちゅぱ」

言う事をそのまま男性器にしていく。

シズク 81 「今日はー、ご主人といっぱいハンバーグ作って……
ちゅぷ、ちゅっちゅ……ん、ちゅ」

シズク 82 「お口いっぱい頬張ってー……(頬張る) はあゝ
むっ……ちゅぱ♪ はあむ、ちゅぷ♪ はむ、はむ、
はあーむ……ちゅぱ♪」

シズク 83 「舌でいっぱい転がしてー……れる……れる、れえる……
れるれる……れえるれえる……れる、れる……れるれる
ろ……」

(もぐもぐ、口に含んで咀嚼するような)

シズク 84 「お腹いっぱいになるまでー、『もぐもぐ、ごつくん』っ
てするの♪ ああむっ……もぐもぐ……ん……もぐも
ぐ……ん♪ ハンバーグ、おいひい♪」

シズク 85 「はむ……もぐもぐもぐ……んー……もぐもぐもぐ」

(啜えながら)

シズク 86 「んふふ♪ 食べ応えあるねー♪ ああむ、もぐもぐも
ぐ……はあーむ、もぐもぐもぐ……ちゅぱ♪」

男性器をじーつと狙って、かぶりつくフリ。

シズク 87 「おっきいハンバーグはー……一気に、かぶりつくっ♪
がう♪」

主人公、ちよつとびっくり。

シズク 88 「あはは♪ ぴよんって逃げた♪」

シズク 89 「くす♪ くすくす♪ 大丈夫♪ ガブってしないよ？」

シズク 90 「おちんちんは優しく……はあーむ……(啜え) 味わうの
が一番♪ ちゅぷ、ちゅぱちゅぷ……れえるれえる……
ちゅぱ」

【「」から啜えながら喋る】

シズク 91 「「」主人の気持ちよさそうな顔も見れるしね♪ はむ、
ちゅぱ……その顔、だいひゅき♪」

シズク 92 「ちゅぱ……ちゅぷぷ……ちゅぷ、ちゅぷ……れるれえ
る……ちゅぷ」

シズク 93 「んふ、お口いっぱい♪ ちゅぱ……ほっぺ膨らんじやったあ♪」

シズク 94 「ちゅ、れる、ちゅぷ……んう……一口じゃ食べられないよ……♪ はむっ、はむっ、はあーむっ♪」

(30秒。頬張ってもぐもぐなフェラ)

シズク 95 「もぐもぐ……ん♪ ああーむ♪ もぐ、もぐもぐ♪

(★30秒)」

男性器がだんだん持ち上がり、シズクのほっぺが上へ引っ張られる。

【「ここからほっぺを引っ張られてる風に」】

シズク 96 「ん……ん？ んう……んあ……あ……あゝ」

シズク 97 「こしゅ、こしゅじ……ああゝ、ほっぺ、引っかかってあゝ」

シズク 98 「ん、おちんちん、上に、ぐいつぐいつて、しないで……あゝ、引っ張られるうゝ」

シズク 99 「腰、低くして……ああ……うう……ん」

主人公、腰を低くする。シズク、生還。

【「ここから普通に喋る」】

シズク 100 「ぶああ、助かったあ。ほっぺ、ほっぺグイーってされたあ」

シズク 101 「もー、おちんちん、元気すぎだよお」

シズク 102 「くす♪ こうなったら、いっぱいびゅーびゅーさせて、小さくしちゃうからっ♪ 覚悟してねー♪」

シズク 103 「えへへ♪ おっきいハンバーグ、いっただっきまーす♪

ああゝ……あむっ♪」

シズク、奥まで啜えこんで責める。

シズク104 「じゅぶ、じゅぶ……じゅば……ん、じゅぶ……じゅぶ、
じゅぶ……ん、じゅぶ、じゅぶ、じゅば……はあ……あむ、
じゅぶ、じゅぶ……ん、じゅば、じゅぶ……れる、じゅ
ぶ……じゅぶ……れるれるるるる♪」

腰を引いてしまう主人公。

シズクはすかさず腰に抱きつく。

シズク105 「んあ、ハンバーグ逃げちゃう……ん、ぎゅーって抱き
ついてー、はあーむっ♪ （啜え）逃がさないもん♪」

【「」から啜えながら喋る】

ペースアップ。

シズク106 「じゅぶ、じゅば、じゅぶぶ、じゅぶ、んちゅ、じゅ
ぶ……れるれるるるる♪ くす♪ あむ♪ ん、じゅぶ、
じゅば、じゅば♪ じゅぶ、じゅぶ、じゅば……ん、じゅ
ぶ、れるれえろ」

シズク107 「出ちゃう？ ん、じゅぶ、じゅぶ……いいよ♪ じゅる、
じゅぶ……口の中に、じゅぶ、ちようだい♪ じゅぶ、
じゅば……「ご主人の、白いの……じゅぶ、じゅぶ……いつ
ぱい、ちようだい♪ じゅぶ、じゅぶ、おねがあい♪
じゅぶ、じゅぶ、おねがい、ご主人♪」

だんだんと激しくなり、射精へ。

シズク108 「じゅば、じゅぶぶ、じゅぶ、じゅぶ、じゅぶ、じゅぶ、
ん♪ じゅぶ、じゅる、れる、じゅぶ、じゅぶ、んっ♪
じゅぶぶ、じゅぶ、じゅば、んっ♪ じゅぶじゅぶ、
じゅぶぶ、れるれる、じゅぶぶ（射精）んっ♪ んん
んっ！ ん、んん……ん……ちゅぶ……ちゅぶ……ん……
ちゅぶ……」

吸い上げる。

シズク二〇 「中に残ってるのも、全部出して？　ちゅ……

ちゅうう……ちゅっちゅ……ちゅー……ん……

ちゅうう……ん、ちゅぱっ

《◆正面/30㊦へ、口を閉じたまま移動》

シズク二〇 「ん……ん……」

シズク、口の中の精液を見せる。

（口を開けたまま喋る）

シズク二一 「ああ……いっぱい出たね♪　えへへ♪」

飲んでしまう。

シズク二二 「んっ……ん……んう……んぐ……ゴクリ……」

【「」から普通に喋る】

シズク二三 「んはあ……」ちそうさま♪」

シズク二四 「あ、うとうとしてるでしょ。ほら着替えて？　お買い

物♪　一緒に行い♪」

（01-END　3321文字　80秒）

ハンバーグを焼いているシズク。主人公は後ろから抱きついて様子を見ている。

シズク、横に置いた料理雑誌を読む。

《◆右/10cm》

シズク 115 「えっと、『綺麗な焼き色が付いたら、ひっくり返す』って」

シズク 116 「そろそろいいよね」

シズク 117 「んじゃあ二つとも……よっと」

ハンバーグを一つひっくり返す。ジュウ。

シズク 118 「こっちもー」

もう一つのハンバーグも返す。

シズク 119 「よし……」

シズク 120 「どう？ 綺麗に焼けてるでしょ。」

シズク 121 「えへへ、早く食べたいねー」

しばし焼く。

(15秒。楽しそうな雰囲気で呼吸)

シズク 122 「(★15秒)」

シズク、後ろから抱かれていることにそわそわ。

シズク 123 「ん……ご主人？ ずっと後ろで見てるけど、そんなに心配？」

シズク 124 「大丈夫だよー、ケガしないって」

シズク 125 「あ、それとも……私に、ぎゅーってほしいだけ？」

シズク 126 「（照）んふふー♪ それなら、しょうがないなあ♪」

シズク 127 「別にいいけど、ちゃんとぎゅってして」

ぎゅ。

シズク 128 「ん、えへへ」

しばし焼く。

（20秒。楽しそうな雰囲気で呼吸）

シズク 129 「（★20秒）」

シズク 130 「ねえねえ、ご主人はどっちのハンバーグがいい？」

シズク 131 「どっちも手のひらサイズだけど、んー……こっちのほうが大きいかも」

シズク 132 「こっち？ やっぱり？ くす♪」

シズク 133 「もうちょっと大きめに作っても良かったかなー」

シズク 134 「ん、ご主人のじゃなくて、私の♪」

シズク 135 「食べ過ぎじゃないよ？ ちゃんと運動してるもん」

シズク 136 「うん、朝走ってる。公園まで」

シズク 137 「え、意外？ 私だってやる時はやるんです」

シズク 138 「だからほら……太ももとか、筋肉付いてるかも」

シズク 139 「うん、触ってみて？」

もみもみ。

シズク 140 「ん……んっ……どう？」

シズク 141 「ぶにぶに？ そんなわけ……ぶにぶにだあ」

シズク 142 「うう、すぐには痩せないか」

シズク 143 「運動ってどれくらい続ければ、こう、筋肉付いてるって感じになるんだろ」

シズク 144 「一か月？ えー、まだ三日だよ……」

しばし焼く。シズク、もみもみされている。

(20秒。呼吸。たまに『んっ』と声を出す)

シズク 145 「……………ん……(★20秒)」

シズク 146 「んー？ ごしゅじーん、いつまで揉んでるの〜？」

シズク 147 「くす♪ ふにふにがいいのー？」

シズク 148 「えへへ、好きにどーぞ♪」

(15秒。呼吸。たまに『んっ』と声を出す)

シズク 149 「(★15秒)」

シズク 150 「そろそろかなー」

《◆やや下にかがむ》

シズク 151 「焼き加減はーっと……うん、いい感じ」

シズク、次の手順を読む。

《◆右/10cm 戻る》

シズク 152 「次はー、『両面に焦げ目がついたら、弱火にして』」

《◆やや下にかがむ》

シズク 153 「弱火……よし」

《◆右/10cm 戻る》

シズク 154 「『大さじ一杯の水を入れて、蒸し焼きにする』……おっけー」

シズク 155 「んじゃあ、お水を入れてー」

水がジュワーっと音を立てる。

フタをする。

シズク 156 「これでよし」

シズク 157 「ちよっと待ちだね〜」

主人公、雑誌に興味を示す。

シズク 158 「ん？ これ？ ああ、今日病院でね、女医さんから貰ったの」

シズク 159 「そう。料理の話で『この本がオススメだよー』って言われて」

シズク、雑誌をぱらぱらめくる。

シズク 160 「ほら、料理の作り方がたくさん載っててー……えへへ、読めば読むほど、お腹空いちやうんだよね」

シズク、とある料理のページを見せる。

シズク 161 「あ♪ ご主人、これとかどう？ 肉じゃが♪」

シズク 162 「食べてみたい？ くす♪ じゃあ今度ね♪」

さらにページをめくっていく。

シズク 163 「んー……あとは何が載ってたかなー……」

シズク、最後の広告ページに目が止まる。

シズク 164 「お？ 最後のページ、なにこれ……『頑張るあなたに、最高の』ほうびを……心やすらぐ、またたび温泉」

シズク 165 「おお、なんだか、すごそうっ」

シズク 166 「んでも、温泉って何？？」

シズク 167 「お風呂みたいなもの？ とっても気持ちいい所？」

「ご飯に食いつく。」

シズク 168 「え、美味しいご飯もあるの！？」

シズク 169 「へえ、温泉かー♪」

シズク、目をキラキラさせながらにじり寄る。

シズク 170 「ご主人、温泉だって♪」

少し間。

シズク 171 「温泉だよ？ ご主人」

少し間。

《◆右/0cm》（脳に直接語り掛けるような囁き）

シズク 172 「温泉」

《◆右/10cm》

シズク 173 「ほら、ご主人も行きたくなってきた」

シズク 174 「どーするー？ 行くー？」

『行くか』と言われちょっと予想外な様子。

シズク 175 「ん、行くの？ ほんとー？」

シズク 176 「あ、いや、ビックリしちゃった」

シズク 177 「だってほら、この旅館、結構高そうだし……ご主人、大変でしょ？」

シズク 178 「もっと安い所でもっ」

この旅館にしよう。

シズク 179 「ほんとにここでもいいの？ 私、旅行までずっとしつぽフリフリしちゃうよ？ ほんとに、ほんとにいいのっ？」

シズク 180 「えへへ♪ じゃあ……連れてってくれる？」

シズク 181 「うん♪ 約束♪」

嬉しそうに温泉のページを眺める。

シズク 182 「んー……んふふー♪ どんな料理出てくるんだろー♪」

シズク 183 「マグロ♪ マグロがいいなあ♪ うひひー♪」

シズク 184 「ん、あ、温泉も楽しみだよー？」

シズク 185 「もちろん♪ だってー……」

《◆右/0cm》【ここから小声】

シズク 186 「こーやって体をくっつけてー、温泉に入れるんでしょっ。」

シズク 187 「ご主人と、裸で、二人っきり♪ 楽しみだな〜♪」

シズク 188 「ねえねえ……温泉で、どんなことしょっか♪」

シズク 189 「どんなこと、してほしい？ んー？」

シズク 190 「（呼吸）……くす♪ どうしたの？」

シズク 191 「もしかして、えっちなこと、想像しちゃった？」

ハンバーグが焼ける音が響く。

主人公が呼びかける。

《◆右/10cm》【こーから普通の音量】

シズク 192 「え？ あ、ハンバーグ！ 忘れてたあ」

慌ててフタを開ける。

シズク 193 「あちちち……んえ？ 焦げてないからセーフだよー」

シズク 194 「火はとりあえず止めてっ」と

シズク 195 「ふう……美味しく出来てますよーに……」

シズク 196 「竹串を刺して……（刺す）ん……透明な肉汁が出たら……（出る）お……おお〜♪ じゅわーって出てきた♪」

シズク 197 「シズクの手作りハンバーグ♪ 無事完成♪」

シズク 198 「どーおご主人？ 美味しそうでしょー♪」

シズク 199 「ん〜♪ 褒めて褒めてー♪」

シズク 200	「えへへ♪ もーっと褒めてー♪」
シズク 201	「あ、頭は撫でちゃダメ。油飛んでるよ」
	《◆右/0cm》（囁き）
シズク 202	「くす♪ 後で、いーっぱい撫でて?」
	《◆右/10cm》
シズク 203	「うん♪ じゃあ、お皿取ってくれる? おねがい」
	お皿を取る主人公。
	《◆正面/30cm》
シズク 204	「ありがとう」
	（フェードアウト）
(02-END	1508 文字 70 秒)

ある日の昼ごろ。旅館の部屋に到着する二人。
戸を開ける。

《◆正面/30cm》

シズク 205 「おお〜♪ 結構広いな〜」

二人、部屋の奥へ。

シズク 206 「荷物どこでいい？」

シズク 207 「はーい」

荷物を置く。

シズク 208 「はあ……手も足も疲れちゃったあ」

シズク、座布団の上に座る。

《◆正面下/30cm》

シズク 209 「ふう〜……」

庭から風が流れる。

空気を大きく吸って吐く。

シズク 210 「すー……はあ〜……んー、家と違う匂いがする。

すー……はあ〜……うん、空気が美味しい♪」

シズク 211 「ご主人、この旅館で正解だね♪ そんな感じがする。まだ何もしてないけど……えへへ」

しばし間。小鳥のさえずりが心地いい。

シズク 212 「すー……はあ〜」

シズク 213 「ん、ご主人も座りなよ〜。一緒に休憩〜♪」

主人公、座る。

《◆正面/30cm》

シズク 214 「すー……はあ〜」

シズク 215 「でも、晴れて良かったねー。雨降るかもしれないなかったんでしょ〜。」

シズク 216 「うん、ほんと良かったあ」

シズク、体を伸ばす。

シズク 217 「ん〜〜〜……はあ♪」

シズク 218 「歩き疲れた体は、温泉で癒すに限る♪」

シズク 219 「もう入れるんだよね？ 入る入る♪」

入浴の準備。荷物をガサゴソ。

シズク 220 「あ、露天風呂って何持ってたらしいのかな」

シズク 221 「着替え？ ああ、シャツは持ってきたよ？」

シズク 222 「うん、ご主人のシャツ。五枚くらい。もちろん私が着る用」

シズク 223 「え、違うの？」

主人公、旅館の温泉浴衣を取り出す。

シズク 224 「何それ。あったかそー♪」

シズク 225 「温泉浴衣って言うの？ へえー」

シズク 226 「それ貸してー？」

シズク、浴衣を受け取る。

シズク 227 「ん、ありがとー♪」

シズク 228 「お返しにー、シャツ一枚あげる♪ はい♪」

主人公、主人公のシャツを受け取る。

シズク 229 「ん、お礼はいいよ♪ くす♪」

シズク 230 「さてと、早く温泉行こ♪ ご主人♪」

二人並んで歩く。

シズク、うつきうき。

《◆右/30cm》

シズク 231 「えへへー♪」

シズク 232 「温泉♪ 温泉♪ 温泉♪ 温泉♪」

シズク 233 「温泉♪ 温泉♪ 温泉♪ 温泉♪」

シズク 234 「ほら、ご主人も一緒にー♪ せーのっ」

(フェードアウト)

シズク 235 「温泉♪ 温泉♪ 温泉♪ 温泉♪」

シズク 236 「温泉♪ 温泉♪ 温泉♪ 温泉♪」

(03-END 458 文字)

4. まったり、やきもち? 露天風呂♪

露天風呂。二人がお風呂でまったり。

《◆右/30cm》

シズク 237 「はああ……とけちゃうぅ♪」

シズク 238 「温泉、さいこぉ♪ ふえ〜」

シズク 239 「こしゅじーん、くつつこーよー」

《◆右/10cm 近く》

シズク 240 「ん……ん、はあ……ふう」

シズク、主人公の体をまさぐる。

シズク 241 「ん……ご主人の体って、ガッチリしてるよね」

シズク 242 「んー……んー……おお」

シズク 243 「肩も……背中も……うん」

シズク 244 「私みたいなぶにぶにの体と、ぜんぜん違う」

シズク 245 「うん……さすが、オス♪」

シズク 246 「私の、かっこいい、オス♪ んふふ」

《◆右/0cm 近くって密着》

シズク 247 「ぎゅー……♪」

シズク 248 「あったかぁーい……♪ はあ……♪」

シズク 249 「くす♪ ご主人、顔赤いよ? 大丈夫ー?」

シズク 250 「温泉は、リラックスだよー♪」

シズクが自分の胸をつつく。

シズク 251 「ほら、おっぱい見てー? つんつん♪ つーんつん♪」

シズク 252 「沈めようとしても、ぷかーって浮いてくるの♪ くす♪
す♪いでしょ♪」

シズク 253 「これなら、おぼれても安心♪」

シズク 254 「こ主人も、おぼれそうになったら私にぎゅーってするんだよ？ えへへ♪」

シズク 255 「ぎゅー……♪」

遠くから鈴の音が聞こえる。

《◆右/10cm》

シズク 256 「ん……あれ？ ここって貸し切りだね。お客さんが来たみたい」

主人公、ちよつと動揺。

シズク 257 「くす♪ ビックリしないで？ ほら、人じゃなくて、猫さん。ここの宿に住んでるのかなー。挨拶してみよっか♪」

《◆右斜め前/30cm》

シズク 258 「にゃーう♪ こんにちはー♪」

猫が鈴の音を鳴らしながら近づく。

シズク 259 「なーに？ 撫でてほしいの？」

シズク 260 「しょうがないなあ、いいよ♪」

シズク、宿の猫を可愛がる。

シズク 261 「えへへ♪ よーしよし♪ ここが気持ちいいでしょー♪
うんうん♪ 分かる分かるー♪」

シズク 262 「この猫さん、毛が濡れても大丈夫なんだね。温泉に慣れてるのかなー」

シズク 263 「うん、普通は『気持ち悪い』って思っちゃう。私も猫だった頃は、お風呂苦手だったし」

シズク 264 「珍しい猫さんだね〜」

猫が主人公の前へ。

シズク 265 「あ、ご主人にも甘えたいの？ んー、ちょっとだけだよ〜」

シズク 266 「ご主人、撫でてほしいんだって」

主人公、猫を撫でる。

猫は体をくねらせて、鈴音を鳴らす。

シズク 267 「ああ……気持ちよさそう♪」

シズク 268 「うんうん……首の横も……ほっぺのとも……なでなで……すりすり……そこ、気持ちいいんだよねえ」

シズク 269 「はあ……いいなー」

主人公の撫でっぷりにシズクそわそわ。

シズク 270 「おっ、背中も撫でるの？ 結構サービスするねー」

シズク 271 「あ……ああ……あ、あ」

シズク 272 「んっ！ し、しっぱの付け根も……っ!？」

シズク 273 「お……あ……あ、あ、ス、ストップ！ やりすぎじゃない〜」

シズク 274 「そこは、とっても気持ちいいとこだよ!？ 会ったばかりの猫さんに、やる事じゃないと思うな〜っ!」

シズク 275 「うんっ！ 猫さんが勘違いしたらどうするの?」

シズク 276 「え？ いや、勘違いっていうのは、その……」

猫、主人公の顔に近づく。（鈴音が間近に）

シズク 277 「あ、猫さん！ 顔スリスリはだめっ!」

シズク、猫に威嚇する。

シズク 278 「フーツ！ フーツ！ フーツ……
フーツ……」

猫、どこかに走っていってしまう。

シズク 279 「ふんっ」

主人公、恐る恐るシズクを見る。

《◆正面/30cm》

シズク 280 「ん……なーに？」

シズク 281 「あの目見たでしょ？ ご主人のこと狙ってた」

シズク 282 「絶対狙ってたっ」

シズク 283 「うー……よその猫さんにああいう撫で方しちやダメっ」

シズク 284 「なんでって、しっぽの付け根だよ！？ しっぽの付け
根！」

シズク 285 「もう、分かってない！ ご主人のばかりっ！」

シズク、そっぽを向く。

シズク 286 「うー……うー……うー……」

主人公、そつと手を伸ばす。

シズク 287 「ん……やだ……撫でないでよ……」

主人公、シズクの頭を優しく撫でる。

シズク 288 「んっ……んう……謝っても、んっ、許さないもん」
しばしなでなで。

シズク 289 「ん……んん……んあ……んっ」

シズク 290 「いつまで撫でる気？ ほっというよ……それ以上撫でたら、引つかくよっ。」

主人公、撫でるのをやめない。

シズク 291 「あ……んっ……んっ……うっ……もう」

《◆右耳/0c3 シズクが抱きつく》

シズク 292 「ん……」

シズク 293 「そんなに謝るんだったら……してよ」

シズク 294 「私のことも、可愛がってよお」

シズク、お尻をふりふり。

シズク 295 「ん、ほら……さっきの猫さんみたいに……しっぽ……

しっぽすりすり……おねがい、ご主人……おねがい」

しっぽの付け根を撫でられる。

シズク、たまらにやい気持ちよさに体をくねらせる。

シズク 296 「ん……はああ♪ はうう♪ んっ♪ んうっ♪」

シズク 297 「ゆっくりい……ゆっくりでおねがい♪」

シズク 298 「はあ、んっ♪ 人間になってから、ん♪ こっ、触られたこと無いから……はあ……敏感、なの♪」

シズク 299 「ん、はああ♪ んっ♪ そんな感じ♪ んっ♪ きもちい♪」

シズク 300 「はあ……はうう♪ ん、はああ♪」

シズク 301 「ご主人……ごめんねはもういいから……ん、好きって……はあ、好きって、言っ♪ はあ♪」

好きと言われ嬉しそう。

シズク 302 「ん♪ えへへ♪ はあ……近い♪ えへ、くすぐったい♪ あはは♪ んっ、はあ、はあ♪」

シズク 303 「私も好き……はあ、ご主人、好き……はあ……
ん……はあ♪」

シズク 304 「耳元で好きって言われるの……はあ、すごい♪
んっ♪ 耳、気持ちいい♪」

シズク 305 「んう……はあ……好き……好き♪」

シズク 306 「うん……好き……好き……はあ……大好き♪」

シズク 307 「はあ……うう……♪ ん、はあ……♪」

シズク 308 「え？ しっぱ、くねくねしてる？」

シズク 309 「ん、やーあ、見ないで……恥ずかしいよお」

《◆右耳/0cm から 正面/0cm へ移動しながら》

シズク 310 「」しゅじーん♪ 見ちゃだーめ♪」

甘い声を漏らしながらキス。

シズク 311 「んむ……ちゅ……ちゅ、ちゅつれる……んっ♪ れえ
る……んっ、ちゅぶ、ちゅ、ちゅー……はあ……んっ♪
んちゅ……れえる、れえろ、ん、れる、れえる」

シズク 312 「んへへ♪ もっとちゅーしよ♪」

シズク 313 「あむっ♪ れえる、れる、れろ、れろ……んっ♪ ちゅ、
ちゅぶ……はあ、あむっ……ん♪ ちゅ、ちゅ……れるれ
る……ん、ちゅぱ……れる、ちゅ……れえるれる……
ちゅ……ちゅ、ちゅ……んっ♪ ちゅー……れるれる」

《◆正面/10cm》

シズク 314 「ぶあ……今度はー、ほっぺ♪」

シズク 315 「私のほっぺ、むにゅーっして可愛がつてよ♪ ほら♪
んっ」

シズク、主人公に頬をぶにぶにされる。楽しい。

シズク 316 「んゅーっ♪ うーっ♪ んあーっ♪ くすくすっ♪」

シズク 317 「私のほっぺ、もちもちする〜？ ん〜♪
うう〜♪」

ほっぺもちもち。もち、もち。

シズク 318 「ん〜♪ うっ♪ う、う♪ う〜♪」

シズク 319 「遊んでるでしょ〜♪」

シズク 320 「ん〜、ごしゅじーん♪」

《◆正面/0cm そのまま近づいてキス》

シズク 321 「う〜ちゅ、ちゅっ……ちゅっ……ちゅー♪ ちゅ♪」

シズク 322 「んう〜……口、変な形になってない〜？」

シズク 323 「ん〜ちゅ……むちゅ、ちゅっ……ちゅ、ん〜……ちゅ、
ちゅー……ちゅう……んちゅ……ちゅっちゅー……
ちゅー♪」

《◆正面/10cm》

シズク 324 「ご主人、もっとお♪」

《◆正面/0cm 甘い声とディープキス》

シズク 325 「ん、ちゅ♪ れるちゅ♪ ん、ちゅっちゅ……ちゅー♪
れえる、れる、れる、れる♪」

シズク 326 「はむ、ちゅ♪ あむ、ちゅ♪ あーむ、ちゅ♪」

シズク 327 「れろれるれる……ん、ちゅ♪ ちゅっちゅ♪ れえる、
れる♪ ちゅ、ちゅぶ、ちゅ……あむ、ちゅ♪ れる、れ
る、れる、れる」

《◆左耳/0cm 移動しながら》

シズク 328 「はあ……はあ……♪」

シズク 329 「ご主人……あそこ、ウズウズするっ」

シズク 330 「うん……ご主人とちゅーして、発情しちゃった、か
も……えへへ」

シズク 331 「はあ……はあ……」

シズク 332 「ねえご主人……あそこも、なでなで、してくれる？」

シズク 333 「はあ……おねがい……ご主人の指で、なでなで♪ おねがい♪」

シズク、陰部を優しく愛撫され、甘い声を漏らす。

シズク 334 「はあ……んっ♪ んっ、ん……あんっ♪ あっ……はあっ」

シズク 335 「ぬるぬる、してる？ んっ……えへへ……しっぱ撫でてくれた時から、はあ……ずっとそうだよ？」

シズク 336 「んっ……ご主人、上手だから……んっ、あ……はあ……ご主人の指は……ふう、んっ……メスの猫を、ふわふわあつてさせちゃうの」

シズク 337 「んっ……だから……はあ……ほかのメスに、なでなでは、だめ……♪ はあ……約束だよ？ んっ、約束う♪」

シズク 338 「ああ……んっ……ん、あう……はっ……んっ……はあ、ん♪」

《◆正面/0cm 喘ぎの混じったキス》

シズク 339 「はあ……ご主人、好き♪」

シズク 340 「ん、ちゅ♪ んっ♪ ちゅ、れるれる、れる♪ あ、ん♪ はあ、むちゅ♪ ん♪ れえるれるれる♪ れる、れる、れる♪ んっ♪ れえる、れる、れる♪ ちゅ、ちゅ♪ んちゅ♪ ちゅー……ちゅっちゅ♪」

《◆正面/10cm》

シズク、陰核を撫でられ反応が変わる。

シズク 341 「あ、あっ♪ 待って、そこ、あっ♪ 刺激、つよ♪ は、ん、あっ♪ どっ、んっ、どっ、触ってるの？ あっ♪ あう♪ そっ♪ あ、そっ♪ 指♪ 指、あっ♪ すっ♪ んっ、あっ♪ 気持ち、いい♪」

ぽたぽたと水が滴り落ちる。

シズク、心地よさに脱力、もう一度しがみつく。

《◆やや下に脱力してから 正面/10cm へ戻る》

シズク 342 「はっ、あう、ふう♪ ん、あっ♪ はっ、はあ……
んっ♪ はあ、うっ……あ、はあ……は、ああ♪」

(この後も、軽く脱力するポイントを置いていきます。カクンと下に落ちて戻るイメージ)

シズク 343 「えへ♪ 私の、弱点、はあ、見つかったあ♪ ふ、ぐっ、えへへ♪ ごしゅじ、あっ♪ 指♪ 指、くりくり♪ きもち(脱力)は、あ、はうう……はあ、はあ」

シズク 344 「そこばっか♪ そっ、ばっか、だめ♪(脱力)あっ、はあ♪ お水、あ♪ お水出ちゃ♪ ふ、あっ♪ えっちなお水、出ちゃうよお♪ ん、は♪ だ、め♪ あ、あっ♪」

シズク、軽く絶頂をする。

シズク 345 「ああああ♪ ん♪(脱力)んあ……はあ……はあ」
ぽたぽた、水が止まらない。

シズク 346 「ご主人……はあ、ごしゅじーん♪ あ、あっ♪ んっ♪ 好き♪ あっ♪ 好きいい♪ ご主人、大好きいい♪」

《◆正面/0cm 喘ぎの混じったキス》

シズク 347

「はあ……ん、ちゅ♪ はあ、れるれる、れるれる♪
はあん♪ ちゅ、ちゅ、ちゅ♪ ん、ちゅ♪ んはあ♪
れえる、れる、れる♪ ちゅー、ちゅ♪ ちゅっちゅ♪
はあ、ちゅ♪ れるれるれる、んちゅ♪」

《◆正面/10cm》

シズク 348

「はあ、はあ」

シズク 349

「ご主人も、『大好き』って、んっ、言っっ♪ はあ、
あっ♪ ご主人の声、耳元で、聴かせて♪ ん、んっ、
あっ♪」

愛を囁かれ、より感じるように。

《◆右斜め前/10cm 耳元が主人公の口に来る》

シズク 350

「は、あっ♪ あ、あ、あっ♪ これ♪ これ、だめ、か
も♪ あっ、すぐいっちやう♪ は、ん、気持ちいい♪
ご主人の声、気持ちいい♪」

シズク 351

「ん、ふっ、ん、はあ♪ は、はう♪ ん、ん、あ、あ、
あっ♪」

絶頂へ。

シズク 352

「だめ、だめ♪ すごいの、来ちやう♪ 来ちゃ、はっ♪
ごしゅじ、ひっ♪ あ、あ、あ、あっ♪ いく、い
く、いくいくいく♪ い、くううう♪ (絶頂)
ああああああ♪」

水がプシャツと吹き出す。

シズク、体を震わせながら辛うじて呼吸。余韻。

《◆右斜め前/10cm から少しずつ下へ》

シズク 353

「あっ……あっ……はっ……はっ……ん、はあ……
はあ……はあ……♪」

シズク 354 「えへ……力はいんなーい……♪」

シズク 355 「おぼれちゃうう……助けてー？ ごしゅじーん……♪」

主人公がシズクを抱きしめる。

《◆右耳/063 抱きかかえられて移動》

シズク 356 「はあ……ん、ぎゅ……はあ……ん、はあ……はあ……
はあ……」

シズク 357 「ありがとお……ん、えへへ……さすがご主人だね……
私、メロメロにされちゃったあ」

シズク 358 「んふふー……すきー……ちゅ♪ すきー……ちゅ♪」

シズク 359 「くす……ねえご主人……硬いの、お腹に当たってる♪」

シズク 360 「えへへ、ずっと我慢してたの？」

シズク 361 「ごめんね？ 私だけ気持ちよくなっちゃった」

(囁き)

シズク 362 「(ー呼吸)……お返し、してあげよっか♪」

(04-END 3262文字)

引き続き露天風呂。

《◆右耳/0cm》

【「」から小声】

シズク 363 「じゃあ、手でするね?」

シズク、男性器を握る。

シズク 364 「ん……はあ……すごい硬い……♪」

ゆつくりと扱く。

シズク 365 「はあ……はあ……あ、はあ……ん」

シズク 366 「おちんちん、びしょ濡れだね♪ ん……はあ……さっき、私のあそこから、気持ちいいお水がいっぱい出て……
はあ……」主人のおちんちんに、びちゃびちゃーって、か
かっちゃったもんね♪」

シズク 367 「えへへ♪ ぬるぬる♪ ぐしょぐしょ♪ エッチなおち
んちんになっちゃった♪」

シズク 368 「はあ、はあ……ん、はあ……はあ……ふう……はあ……
はあ……」

シズク 369 「ぬちゅ、ぬちゅ……ぬちゅぬちゅ♪」

シズク 370 「見てー? ぬるぬるが、いっぱい指にからまつてるの♪
はあ……」このぬるぬるって、私のだけじゃないよねー」

シズク、先っぽをつんつん。

シズク 371 「あ、やっぴり♪ つんつん♪ つんつん♪ ほら、
おちんちんの先っぽからー、ぬるぬるがどんどん出てきて
る♪ えへへ♪ 気持ちいいの?」

シズク 372 「つんつん♪ つーんつん♪ くす♪ 糸引いてる♪」
シズク 373 「これって、しゅこしゅこすれば、もっと出るのかな♪」
シズク 374 「ねえご主人♪ もっと出してみて♪ エッチなぬるぬる、
もっと出してよ♪」

シズク 375 「私の柔らかあい手のひらで、搾るみたいにー」

シズク、またゆっくり抜く。

シズク 376 「しゅこ、しゅこ……しゅこ、しゅこ♪ はあ、しゅこ
しゅこしゅこ♪、しゅこしゅこー♪」

シズク 377 「あれ？ もうおちんちん、膨らんできてない？」

シズク 378 「んー、ずっと我慢してたもんね」

シズク 379 「でもご主人、すぐに出しちゃダメだよ？」

シズク 380 「だって……まださっきの事、許してないもん♪」

シズク 381 「ご主人の周りに、どろばー猫さんが来ないように……」

私がご主人の体に、マーキングしちゃう♪」

シズク 382 「マーキングが終わるまで、出すのは我慢だよ？ 我慢出
来たら、仲直り♪」

シズク 383 「約束出来る？ ご主人♪」

シズク 384 「うん♪ 頑張ろうね♪」

シズク 385 「じゃあ早速、マーキングしちやいます♪」

シズク、首筋を舐める。

《◆右耳やや下/10cm 首筋のあたり》

【「」から普通の音量】

シズク 386 「はむっ……ちゅ♪、ちゅっちゅ……あむっ……ちゅ……
れる、れる……ちゅ……れえるれるれる♪」

シズク 387 「えへへ♪ 首筋、くすぐったい？ はむっ、ちゅぱ♪」

シズク 388 「我慢だよー♪」

【ここから首筋まわりを左へ右へ、自由に責めて
ください】

(30秒。首筋舐め)

シズク 389 「はあゝむっ……れえる、れる……ちゅ、れる……♪
(★30秒)」

シズク 390 「あったかあい温泉で、おちんちんしゅこしゅこされ
て……ちゅぶ、れるれる……あったかあい舌で、首をこ
しょ」しょ♪ れるれるれる……♪ 幸せ？ ちゅ、れえ
るれる……ちゅば」

シズク 391 「全身こすり付けてー、私の匂いで、いっぱいにしてあげ
る♪ ちゅぶ、ちゅ……れるれるれるるる♪」

シズク 392 「おっぱいも、むにゅむにゅー♪」
(30秒。楽しそうに首筋舐め。いきなり反対側
を舐めるみたいな不意打ちも出来れば)

シズク 393 「れえるれる……ん、あむっ♪ れるれるる♪
(★30秒)」

シズク 394 「んぶぶ、もっとくすぐっちゃう♪」
(30秒。首筋舐め続き)

シズク 395 「(★30秒)」
【首筋まわりの自由移動はここまで】

《◆正面やや左下/15cm 左乳首に移動しながら》

シズク 396 「次はー……乳首♪」

シズク 397 「ここもー、マーキングしなきゃねー♪」

シズク、主人公の乳首を吸ったり舐めたり。

シズク 398 「はあーむっ……ちゅっちゅ♪ れるれる……ちゅ♪ ん

ふふ、きもちい？ ちゅー♪ あむっ♪ ちゅー♪

ちゅっちゅ♪ れる、ちゅっちゅ♪」

シズク 399 「こうしてると、子猫に戻った気分……ちゅ、ちゅ……マ

マー♪ ミルクちょうだい♪ なんて♪ くす♪」

シズク 400 「あむっ♪ ちゅー♪ れる、れる……ちゅ……はむっ、

ちゅー、ちゅっちゅ♪ ちゅー♪」

シズク 401 「んー？ ママー、ミルク出ないよお？」

シズク 402 「はむっ♪ れるれる……ちゅ、ちゅ……ちゅー♪」

シズク 403 「もっと強く吸ったほうがいいのかなー」

(強めにちゅぱ)

シズク 404 「ちゅっちゅ♪ ちゅー、ちゅぱ♪ ちゅ、ちゅ、

ちゅっ♪ ちゅぱ♪」

シズク 405 「それともー、舌でぺろぺろしたほうがいい？」

(ねっとり舐め)

シズク 406 「あむっ♪ れえる、れる、れる……れえろ♪ れる、れ

る、れる、れる……れえる、れる♪」

シズク 407 「くす♪ ミルクは出ないけど、おちんちんはすごい反

応♪ えへへ、嬉しいんだ」

◆《正面やや右下/15cm 右乳首》

シズク 408 「じゃあこっちの乳首もー♪」

シズク 409 「ああーむっ♪ ちゅっちゅ……れえる、れる……はむっ、

ちゅ♪ れる、んちゅ……ちゅー♪」

シズク 410 「これ、なんだか落ち着く……ちゅ♪ ちゅ♪ あむっ、

ちゅ♪ はあむっ、ちゅ♪」

シズク 411 「こうしながらお昼寝するのも、いいかもね……れる、ちゅ♪ ちゅー……ちゅぱ♪」

シズク 412 「えへへ、ダメ？ いいじゃん、ご主人も気持ちよく眠れるよ？ れる、れる、れえる……私の猫舌を感じながらー……れえる、れる、れる……ぐっすり♪ れる、れる、れえろ♪ れるれる♪ えへへ♪ 眠れなくなっちゃうかな」

(頬張るように)

シズク 413 「ああーむっ、ちゅぱ♪ あむっ、ちゅぱ♪ はむっ、はむっ、はあむ♪ ちゅー、ちゅぱ♪ あゝむっ、ちゅぱ♪」

《◆右耳/0c3 へ移動しながら》【ここから小声】

シズク 414 「(一呼吸)」

シズク 415 「今度はー、お耳♪」

シズク 416 「ここにも、私の匂い、付けていいーい？」

シズク 417 「お耳の周りも、お耳の奥も、ちゅぱちゅぱーっするの♪ っーいっ♪」

シズク 418 「ダメって言っても……しゅこ、しゅこ♪ おちんちん気持ちよくて、逃げられないよね♪」

シズク 419 「くす♪ 無防備なお耳、いただきまーす♪」

シズク、主人公の耳を美味しそうに咥える。

シズク 420 「はあゝ……あむっ♪」

(40秒。ねっとり耳舐め)

シズク 421 「れるれる、ちゅぷ……はむっ、れえる……れる……(★40秒)」

シズク 422 「気持ちいい？ えへへ♪」

シズク 423 「奥も舐めちゃうねー」

(奥にねじ込むような耳舐め)

シズク 424 「れえる、れえる……はぁ、れえる、れえろ、れえ
る……れえる、れえる、れる……」

シズク 425 「んふ、ご主人、声出てるよ?」

シズク 426 「もっとしてあげる♪」

(40秒。奥にねじ込むような耳舐め)

シズク 427 「(★40秒)」

シズク 428 「鳴き声、かわいい♪ 猫みたい♪」

シズク 429 「はぁ、はぁ……もっと聞かせて♪」

(40秒。頬張るような耳舐め)

シズク 430 「はぁむっ、ちゅ……はむっ、れる、ちゅ……

(★40秒)」

《◆正面/10cmへ移動しながら》

シズク 431 「(一呼吸)」

シズク 432 「猫みたいって言われるの、恥ずかしい?」

シズク 433 「えへへ♪ 恥ずかしい事じゃないよ? 私とご主人は、
猫みたいにジャレ合ってるだけ♪」

《◆左耳/0cm》

シズク 434 「だから、もっと猫になってみようよ」

シズク 435 「体をふにやふにやうって楽にして……」

シズク 436 「みゃううって鳴き声を出して……」

シズク 437 「私にぎゅうって抱きついて……いっぱい、いっぱい、
シズクに甘えてっ。」

シズク 438 「ぎゅ~~~~ん。」

シズク 439 「猫になったご主人も、大好きだよ♪ ああむっ♪」

(40秒。ねっとり耳舐め)

シズク 440 「ちゅぷ、ちゅぱ……れえる……ちゅ(★40秒)」

シズク 441 「おちんちんもー、しっぽの付け根をイジるみたい
にー……しゅこしゅこー♪ しゅこしゅこー♪ しゅこ
しゅこ♪ しゅこしゅこ〜♪」

シズク 442 「猫さーん♪ しっぽイジられるの、気持ちいいです
かー？ たまらにやいですかー？」

シズク 443 「くすくす♪ しっぽ、すごい暴れてる♪」

シズク 444 「もー♪ えっちな猫さんになっちゃったねっ」

シズク 445 「いけない猫さんは、ちゃんとシツけないと♪ くす♪
ああ〜むっ♪」

(奥にねじ込むような耳舐め)

シズク 446 「れえる、れえる、れえろ、れえる……れえろ、れえる」

シズク 447 「んふふ、しっぽも、しゅこしゅこ〜♪ 我慢出来るか
なー♪」

(40秒。ねじ込むような耳舐め。時折鳴き声)

シズク 448 「あむっ、れえる、れろ……んふふ……ん♪ れえる、れ
る……んみゃあ、あむ♪(★40秒)」

シズク 449 「出ちやいそう？ ん、だーめ♪ もうちよつと我慢♪」

(30秒。頬張り舐めまわす耳舐め。時折鳴き

声)

シズク 450 「ああむっ、れるれる……あむ、あむ♪ みゃあ……あ
むっ、れえる♪(★30秒)」

シズク 451 「ぶはあ……もう我慢出来ないの？」

シズク 452 「んー、しょうがないなあ♪ こっち回って♪」

《◆正面/0cm ディープキス》

シズク 453 「ん、ちゅ♪ れるれる、ちゅ……れえる、ちゅ♪ はむ、ちゅ♪ れえる、れるれるれる♪ ちゅー、ちゅぱ♪」

《◆正面/10cm》

シズク 454 「はい、これで仲直り♪」

シズク 455 「うん♪ もうマーケティングはおしまい♪」

シズク 456 「意地悪してごめんね？ 出していいよ♪」

《◆左耳/0cm》

扱く手が早くなる。

シズク 457 「はあ、はあ♪ ん、はあ、はあ♪」

シズク 458 「猫さーん♪ よーく聞いてー？」

シズク 459 「私がせーのって言ったら、猫さんのお耳、ぱつくんって食べちゃう♪」

シズク 460 「はあ、はあ♪ お耳ちゅぱちゅぱされながら、びゅっびゅっ♪ 絶対気持ちいい♪ はあ♪ 我慢した分、ぜーんぶ出ちゃうね♪」

シズク 461 「はあ、はあ♪ いっぱいしゅこしゅこするから、ぴゅっぴゅ頑張れー♪」

シズク 462 「しゅこしゅこー♪、しゅこしゅこしゅこー♪、はあ♪しゅこしゅこ♪、しゅこしゅこしゅこ♪」

シズク 463 「頑張れ♪ 頑張れ♪ はあ、はあ♪ ん、はあ♪」

シズク 464 「あ♪ おちんちん膨らんできた♪ えへへ♪ 出して♪ 出して出して♪」

シズク 465 「お耳ちゅぱちゅぱ、いっぱいする♪　いくよー？」

シズク 466 「せえーのっ♪　はあむっ♪」

シズク、射精にびっくりうっとりしながら、耳を責める。

シズク 467 「れるれる、んっ！　れる♪　んー♪　れるれる♪　んっ、んっ……れるれる♪　んふふ♪　んく♪　れるれるれえる♪　れるれえる、れるれる♪　ん♪　れえるれえるれる♪　んん♪　れえる、れえる、れえろ♪」

だんだん緩やかに。

シズク 468 「ちゅぷ、ちゅ……れえるれる……ん……れるれる……ん……れえる……ちゅぱ♪」

シズク 469 「はあ、すごーい……お手手もべとべとー♪」

シズク 470 「くす♪　びゅーっびゅーっ、いっぱい飛んでたよ♪
この量は初めてかも」

シズク 471 「全部出せた？」

シズク 472 「ん、良かった♪　お疲れ様、ご主人♪」

しばし間。

《◆左耳/10cm》【「」から普通の音量】

シズク 473 「ふう……のぼせちゃうといけないね。そろそろ出る？」

ご主人が抱きついて離れない。

シズク 474 「ん、ご主人？　もー、まだ猫さんでいたいのか？　んー、いつものご主人に戻ってくれないと、困っちゃうなあ」

シズク 475 「くす♪　じゃあ、お部屋に戻ったら、また甘えていいよc。」

シズク 476 「お布団あったよね。二人でごろごろっしてしよーよ♪」

シズク 477 「よし♪ 決定♪」

(05-END 3022 文字 320 秒)

部屋に戻って休憩中。

布団がもぞもぞ。

シズク、布団から顔を出す。

《◆正面下/30cm》

シズク 478 「んー、ばあっ♪」

シズク 479 「びっくりした？」

わあびっくり。

シズク 480 「ん、わざとらしいなー」

シズク 481 「んじゃあ、これは？」

シズク、布団をめくる。

シズク 482 「じゃーん♪ 温泉浴衣♪ こっそり着替えちゃった♪」

シズク 483 「お、びっくりしたー？ どーよ♪ ご主人とおそろい♪
えへへ♪」

シズク、隣をぽんぽん。

シズク 484 「ねえねえご主人、お布団入ろー？ ふかふかであったか
っよーっ。」

シズク 485 「おいでおいでー♪」

布団を被る主人公。二人でもぞもぞ。

《◆◆正面/30cm もぞもぞ》

シズク 486 「お布団かぶってー……ん……ん……ん……」

もぞもぞしているうちに浴衣が崩れてしまっ。

シズク 487 「あ、あれ……あ……ああ……！」

シズク 488 「いやあ、そのー……浴衣が崩れちゃってー」

シズク 489 「ん、大丈夫、自分で直してみる」

シズク、浴衣を直そうとする。

シズク 490 「ん、しょ……見よう見まね♪ 浴衣を直すのもー……ん、

私に……まかせ、て……ん……んー？」

シズク 491 「思ってたより、難しいかも……」

シズク、主人公に近づく。

《◆正面/10cm 近づく》

シズク 492 「ご主人、直してほしいなー♪」

シズク 493 「うん、おねがい♪」

しばし直す。シズク、声が漏れる。

シズク 494 「ん……ん……ん……」

シズク 495 「ああ、気にしないで……体、こすれちゃって……」

シズク 496 「ん……ん……んっ♪」

シズク 497 「えへへ、バレちゃった？ 下、何も履いてないんだよねー」

シズク 498 「そのほうが動きやすいし、いいでしょ？」

シズク 499 「ん……ん……ん？」

シズク 500 「ご主人、目そらしてたら直せないんじゃない？ ちゃんと見てよー」

シズク 501 「ん……んっ……」

シズク 502 「まあ、お布団の中なら、二人つきりだしー」

《◆右耳/0cm》（囁き）

シズク 503 「直すんじゃないくて、脱がしてもいいけど♪ くすっ♪」

主人公、ちゃんと帯を締める。

《◆正面/30cm》

シズク 504 「んお、きつく締めないでっ…………おお…………運動不足のお腹に、その締め付けは、効くう…………！」

シズク 505 「（小声）むう、おちんちんが小さい時は素直じゃないんだね…………っ」

シズク 506 「ん、ご主人だって崩れてるよ？」

シズク 507 「うん、胸がちよっと見えてる」

シズク 508 「ふふー♪ 直される前にー」

《◆正面やや下/10cm 抱きつく》

【「」こから顔すりすり】

シズク 509 「ぎゅ〜〜♪ ん〜〜…………んう〜〜」

シズク 510 「顔すりすりして…………マーキングう〜〜♪ ん〜〜…………んい〜〜…………私のだぞーって…………アピールするの〜」

シズク 511 「んあ〜〜…………♪ んう〜〜…………♪」

シズク 512 「ん〜、さっきの事お〜？ 引きずってるに決まってるよお〜」

シズク 513 「私以外の猫さんにい、あんなになでなでしちやダメえ〜〜…………うう〜〜…………」

【「」こまで顔すりすり】

シズク 514 「もうしない？ ほんと？」

シズク 515 「もし嘘だったら、ずっとイカクするからね？」

威嚇（本気じゃないけど）

シズク 516 「フーッ…………！ フー…………！ フー…………！」

シズク 517 「怖いでしょー♪ フー…………がう♪」

シズク 518 「あはは♪ 大丈夫♪ 噛んだりはしないって」

シズク 519 「うん、絶対しない」

シズク 520 「好きな人に噛みつくなんて出来ないよ」

シズク 521 「……喧嘩もしたくないし」

シズク 522 「その……私もごめんねっ……つい熱くなっちゃって」

シズク 523 「うん♪ これでちゃんと、仲直り♪」

シズク、また顔すりすり。

シズク 524 「んう……でも、匂いは付けとく……♪」

シズク 525 「んあ……♪ んう……♪

んあう……♪」

シズク 526 「ん、満足♪ えへへ♪」

シズク 527 「今度はー、ご主人が甘える番♪」

シズク 528 「さっき言ってたでしょ？ 猫みたいに、甘えたいって♪
ううよ♪」

《◆正面/30cm》

シズク 529 「ほーら猫さーん♪ 私の胸においでー♪」

主人公がシズクに抱きつく。

《◆正面やや上/10cm 今度はシズクの胸に主人公
が来る》

シズク 530 「ぎゅ……♪」

シズク、主人公をなでなで。

シズク 531 「うん♪ よし、よし……いいこ、いいこ♪ んふ
ふー♪」

シズク 532 「」主人のおかげで、こんなにいい所に来れたんだもん。
」主人も、いっぱい癒されないとねー♪」

(『みゃう』短めの鳴き声)

シズク 533 「みゃう♪ ありがと、ご主人♪」

シズク 534 「私はなでなでしてるから……ご主人はごろごろって、お昼寝する猫になろうね♪」

シズク 535 「よし、よし♪ (呼吸) ……よし、よしー♪」

シズク 536 「えへへ♪ ここが気持ちいいでしょー♪ うんうん、分かる分かる♪」

(左右にゆらゆら)

シズク 537 「(左)首の横も……(右)ほっぺのとも……
(左)なでなで……(右)すりすり……」

シズク 538 「どーお？ 猫みたいに撫でられるの♪」

シズク 539 「えへへ♪ 今のご主人は、猫だからねー♪」

シズク 540 「ご主人は頑張り屋さんだもん。今日くらいは、猫になってもいいと思う」

シズク 541 「私が受け止める♪ だから、大丈夫だよ♪ 私の胸の中で、いっぱい猫になろうね♪」

シズク 542 「(呼吸) ……よし、よし……ういっ、ういっ……♪」

《◆右上/10cm 右から覗き込む》

シズク 543 「私の胸に、ぎゅーって、顔をうずめて？」

より強く抱きつく主人公。

《◆正面やや上/10cm》

シズク 544 「はあ……ん……そんな感じ……♪」

シズク 545 「ぎゅー………♪ んぎゅー………♪」

シズク 546 「心にどんなモヤモヤがあっても、私にぎゅーってすれば、
ゼーンんが忘れちゃうよ♪ えへへ♪ んぎゅー………♪」

シズク 547 「（呼吸）……（呼吸）……顔もぽかぽかして、気持ちいいよねー♪」

シズク 548 「♪主人♪ 今度は、すりすり〜っしてみてよ♪」

シズク 549 「猫の気持ちになって、私の胸に、マーキング♪」

シズク 550 「♪主人の匂い、いっぱい付けてほしいなー♪ おねがい♪」

なでなで、すりすり。くすぐったい。

シズク 551 「ん……はあ……あ……えへへ……う……くすぐす♪ ん、気にしないで♪ えへ……私も、ぎゅーっとする♪」

【「」から自由に左右ゆらゆら】

シズク 552 「んー……むにゅむにゅー……すりすりー……んゝ……んゝ……はあ……むにゅむにゅー……柔らかくてー、あつたかくてー、気持ちいい……」

シズク 553 「（呼吸）……よし、よし……甘えん坊でー、かわいい猫さんだねー♪」

シズク 554 「体も、ふにゃふにゃゝ……ちやーんと、リラックス出てるよー♪」

シズク 555 「むにゅむにゅー……むにゅむにゅー……」

シズク 556 「むにゅ……むにゅ？ えへへ♪ 遊んでない？ ん、気のせいかなー♪」

シズク 557 「むにゅむにゅー……むにゅゝ……くす♪」

シズク 558 「むにゅむにゅゝ……むにゅむにゅゝ」

【「」までゆらゆら】

シズク 559 「えへ、顔が、とろーんってなってるね♪ 私の胸、気に入ってくれた？」

シズク 560 「うん♪ 良かった♪」

シズク 561 「そういえばご主人って、どれくらい猫のこと知ってるかな」

シズク 562 「お、自信あり？　じゃあ問題♪」

シズク 563 「仲良しな猫さんと、いつもすること、なーんだ」

シズク 564 「こーう、び……ちが、違うよ？　それは、パートナーとするこーとっー」

シズク 565 「びっくりし過ぎて答え忘れちゃったよ……」

シズク 566 「えっとー、あ……正解はねー、こっち向いて♪」

《◆正面/0cm》

シズク 567 「こーうやって、お鼻をくつつけてー、すりすりーってするの」

（『ちゅ』キスではなく、文字通りに喋ります）

シズク 568 「そう♪　お鼻で、ちゅー♪　ちゅっちゅ♪　ちゅっ

ちゅっちゅー♪　すりすり〜♪」

シズク 569 「あ、お口でちゅーはダメだよ？　お鼻だけっ」

シズク 570 「ちゅー♪　ちゅっちゅ♪　ちゅー♪　ちゅっちゅ……む

ちゅっ」

シズク 571 「くす♪　顔が近くて、ドキドキするね」

シズク 572 「ちゅっちゅ♪　ちゅー♪　ちゅ……ちゅ……ちゅっちゅっちゅっ」

シズク 573 「んふふ♪　こうすると、心もぽかぽかしてくるでしゅっ。」

シズク 574 「とっても、仲良しーって感じ♪」

シズク 575 「ここのまま深呼吸すると、もっとぽかぽかするよっ。」

シズク 576 「私と一緒に、深呼吸しよっか♪」

シズク 577 「うん♪ セーのっ」

深呼吸。

シズク 578 「すー……はー……すー……はー……」

シズク 579 「私とご主人の息が混ざり合って……」

シズク 580 「すー……はー……すー……はー……」

シズク 581 「お布団の中が、二人の息でいっぱい……」

シズク 582 「すー……はー……すー……はー……」

シズク 583 「あったかくて、なんだか、甘い匂いもするね……♪」

シズク 584 「すー……はー……すー……はー……すー……はー……すー……はー……」

シズク 585 「こんなにぽかぽかしてる時に、頭をなでなでされたら、
どうなっちゃうかな……」

シズク 586 「なでなで、するね♪ ご主人も良かったら、私のこと、
撫でてほしいな♪」

シズク 587 「うん♪ 一緒になでなでしよう？」

ゆっくり呼吸しながら、心地いい声が漏れる。

シズク 588 「すー……ん、はあ……うう……ん……はあ……」

シズク、だんだん甘えん坊モードに。

シズク 589 「ご主人……はあ……ご主人……好き……」

《◆左耳/0cm そっと抱きつく》

シズク 590 「ん……ご主人……」

シズク 591 「すー……はー……好き……大好きい……」

(『んみゃゝあ』高く甘えた鳴き声)

シズク 592 「んみゃゝあ……んみゃゝあ……♪」

シズク 593 「気持ちいいよ……」

《◆右耳/0c≡へ移動》

シズク 594 「すー……はー……すー……はー……」

シズク 595 「好きだよ、ご主人……だーいすき……♪」

シズク 596 「んみゃゝあ……んみゃゝあ……♪ ごしゅじーん……大好きい……♪」

シズク、ふと我に返る。

シズク 597 「ん……あっ」

《◆正面/30c≡戻る》

シズク 598 「ごめんね、甘えすぎちゃった」

シズク 599 「ん、大丈夫。また癒してあげるから、こっちおいで♪
ほら、飛び込んでーい♪」

シズク 600 「ん、どうしたの？」

《◆正面やや下/10c≡主人公に抱きつかれる》

シズク 601 「う、あ……ご主人？」

シズク 602 「いきなりぎゅってするのは、ビックリしちゃうよ」

主人公、シズクの頭を撫でる。

シズク 603 「はう……なんで、なでなで……うう……私が癒す番だよっ。うっ、あ……耳の裏……そこ、気持ちいい」

シズク 604 「はあ……ん……ん……はあ、う……はあ……♪」

シズク 605 「ご主人ってほんと……ん、なでなで、上手だね……はう……ずるいよお」

シズク 606 「ん……逃げられない……えへ、捕まっちゃった♪」

シズク 607 「ご主人……甘えていいの？」

シズク 608 「ん……じゃあ……なでなで、おねがい♪」

(30秒。気持ちよく撫でられる)

シズク 609 「んっ……はあ……ふう……ん…… (★30秒)」

シズク、幸せで少し涙ぐむ。

シズク 610 「ご主人……ん……ん……はあ……ふう……う……うう」

シズク 611 「あれ……涙出てきちゃった……ん……」

主人公、そつと頬に手を当てる。

シズク 612 「あ、だめ……指、濡れちゃうよ？ 大丈夫、自分で拭くから」

主人公はそのまま涙をぬぐう。

シズク 613 「ああ……ありがと……でも、指……」

シズク 614 「その指、ちょうだい……♪」

シズク、主人公の指を優しく舐める。

シズク 615 「ん、ああむ……ちゅぷ、ちゅぱ……ちゅぷ、ちゅ」

シズク 616 「えへ、きれいにしなきゃ♪」

シズク 617 「はむ、ちゅぱ、ちゅぷ……はあむ……はむ、はむ♪
ちゅぷ、ちゅ……はむ、ちゅ……はあむ、ちゅ」

シズク 618 「ご主人の指♪ んふふ♪」

(30秒。幸せ指ちゅぱ。少しずつ眠たく)

シズク 619 「ああむ、ちゅぱ……はむ♪ ちゅー、ちゅぱ

(★30秒)」

シズク 620 「(あくび)ん、ふあゝ」

シズク 621 「あ、ご主人もうとうとしてるー」

シズク 622 「んー……このまま、お昼寝する？」

シズク 623 「でも、せっかく旅行に来たのに、寝ちゃっていいのかなー……もったいない気がする」

シズク 624 「ん、そっか♪ 旅行は別に、今日だけじゃないもんね」

シズク 625 「来月でも、来年でも……思い出を作る時間は、いっぱいあるから……」

シズク 626 「でもご主人？ その分、お仕事とか頑張らないといけないんじゃないっ」

シズク 627 「えへへ、頑張れー♪ 私も、頑張るご主人のこと、応援する。帰ってきたご主人を、おかえりー、ぎゅーって、いっぱい癒すから」

シズク 628 「……いつもどおり……そばにいらさせてねっ」

シズク 629 「うん♪」

《◆正面/10cm》

シズク 630 「じゃあ、おやすみのちゅー♪」

シズク 631 「くす♪ お鼻でちゅーじゃなくてー、こっち」

《◆正面/0cm》（本当のキス）

シズク 632 「ん……ちゅっ」

シズク 633 「えへ、もう一回♪ んー、ちゅっ♪」

シズク 634 「お鼻くっつけたまま……おやすみ、ご主人♪」

（60秒。優しい寝息）

シズク 635 「すー……すー……（★60秒）」

（06-END 3290文字 120秒）

夜ご飯を食べ終わった二人。

シズクはとっても満足な様子。

《◆正面/30cm》

シズク 636 「ごちそうさまあ♪」

シズク 637 「はあ、お腹いっぱい♪」

シズク 638 「うん♪ 大満足♪」

シズク 639 「マグロもいっぱい食べちゃったしー」

シズク 640 「あとはー、あれ、小さいお鍋♪ そうそう、下に火をつけるやつー！ あれいいよね♪」

シズク 641 「目の前でグツグツって煮立って、いい匂いを独り占め出来るの♪」

シズク 642 「はあ……美味しかったあ……♪」

シズク 643 「想像したら、またお腹空いてきた」

ほんと？

シズク 644 「あ、冗談だよ？ さすがにもう食べれないってー、えへへ」

しばし間。

シズク 645 「んー……でも、ちよーっとだけ、口が寂しいかも」

シズク、口を寂しそうにすぼめる。

（何かを探すように周りを見る）

シズク 646 「ちゅ、ちゅ、ちゅ……ちゅ、ちゅ、ちゅ……」

シズク 647 「ツナクリーム……は、怒られちゃうなー」

シズク 648 「あつ、そういえば飲み物出されてたよねっ」

シズク、トツクリを手取る。

シズク 649 「これこれ♪ お酒♪」

シズク 650 「足湯に入りながら、ちびちび飲むといいんだって♪ 宿の人が言ってた♪」

シズク 651 「うん……で、肝心の足湯は……なんと、この部屋のベランダに付いてるんだってー♪」

シズク 652 「知ってた？」

シズク 653 「くす♪ 私もさつき知ったー♪」

シズク 654 「ちょっと見てみようよ♪ 行こ行こ♪」

二人、ベランダへ。

シズク 655 「あ、これのことかな」

シズク 656 「家のお風呂と同じくらいの大きさだね」

シズク 657 「何か書いてある」

シズク 658 「なにになに？『ボタンを押すと、温泉が流れます。のんびりと足湯をお楽しみください』」

シズク 659 「おぉー♪」

シズク、目をキラキラさせながらにじり寄る。

《◆正面/10cm にじり寄る》

シズク 660 「ご主人♪ ボタン押したい！ とっても押してみたい！
っーっー」

《◆◆正面/30cm》

シズク 661 「よーし♪ えいっー」

ピツ。

湯口から温泉が流れ出る。

シズク 662 「おお〜♪ ほんとに出てきたあ。すごい♪」

シズク、じーっと流れるお湯を見る。

シズク 663 「おおー……おお〜……」

シズク、流れ落ちるお湯にネコパンチ。

シズク 664 「んっ、んっ……えいつ、えいつ……えいつ、えいつ♪
くす♪ んっ、んっ……んっ、んっ♪ んっ、んっ♪」

やめてね。

シズク 665 「んあ、危ない？ はい」

《◆右/30cm 主人公の隣に座る》

シズク 666 「ふう、お湯が溜まるまで待たなきゃだね」

シズク 667 「……」主人、寒くない？ くつつこ♪」

《◆右/10cm 寄り添う》

シズク 668 「（呼吸）……（呼吸）……」

夜の風。鈴虫の音。

シズク 669 「お空、きれいだね」

シズク 670 「きらきらーって、星がいっぱい」

シズク 671 「んー……空ってこんなに綺麗だったっけ」

シズク 672 「うん。夜の空って、もっと寂しかった気がする」

シズク 673 「なんにも見えないし、窓から覗くと『あーあ、また一日
が終わっちゃったなー』って気持ちになるの」

シズク 674 「でも、この空は、なんだかワクワクする♪」

「旅行も今夜で終わりだし、寂しいはずなのに……とって
もいい一日だったなーって♪ くす♪ ご主人と、この空
を見て良かったって、気持ちになる♪」

シズク 676 「はあ……ほんとに綺麗……♪」

シズク、空に手を伸ばす。

シズク 677 「んー……はあ」

シズク 678 「えへへ♪ こんなにキラキラしていると、なんだか掴めそ
うだね」

シズク 679 「んー……はあ」

シズク 680 「ご主人なら届くかな」

シズク 681 「ほら、一緒に♪ んー……あはは♪ 腕ながー
い♪」

シズク 682 「私も負けないよー？ んー……あはは♪ やっ
ぱり届かないかー」

シズク 683 「いいよ♪ 別に届かなくても」

シズク 684 「その代わり……ご主人のながーい腕で、私のこと、
ぎゅってしてほしいな……なんて」

《◆右/0cm さらに寄り添う》【ここから小声】

シズク 685 「えへ、ありがと」

シズク 686 「（呼吸）……あったかい♪」

シズク 687 「（呼吸）……（呼吸）……」

シズク、主人公の目をじーつと見つめる。

シズク 688 「んー……んー……んふふ」

シズク 689 「んー？ ご主人の目、すっごく綺麗♪」

シズク 690 「うん♪ 星がいっぱい映ってる♪」

《◆正面/10cm 向かい合う二人》

シズク 691 「すーい……♪」

シズク 692 「え、私も？ ほんと？ えへへ、おそろいだね♪」
しばし間。

シズク 693 「ん……なんだか、近くない？」

シズク 694 「（呼吸）……そんなに近くで、星が見たいの？」

シズク 695 「くすっ……いいよ♪ もっと近くで……」

《◆正面/0cm 近づく》

シズク 696 「もっと……もーっと……♪」

口づけ。

シズク 697 「ん、ちゅ……ちゅ……ちゅっ……♪ ん……ちゅ……
ちゅー……ちゅー」

シズク 698 「くす♪ ご主人♪ 目つむったら、星が見えないで
しょっ。」

シズク 699 「んー、ちゅ……ちゅ……ちゅ……ちゅっちゅ……
ちゅー♪」

シズク 700 「（照）んふふー♪」

お互い、嬉し恥ずかし。

《◆正面/30cm》【「」から普通の音量】

シズク 701 「えっとー、お湯たまるの遅いねーっ！ どうしよっ
かー」

シズク 702 「あ、そうだ♪ ちょっと待ってー♪」

シズク、室内に入って何かを取る。

こちらに戻ってくる。

シズク 703 「じゃーん♪ 耳かきー♪」

シズク 704 「こーいう時のために、バッグに入れといたんだ〜♪」

シズク、太ももをぼんぽん。

シズク 705 「ご主人はー、ここ♪ 私の太ももに、ごろーんてして？
耳かきするー♪」

シズク 706 「ほーらあ、遠慮しないで♪」

《◆右耳/30c≡膝枕》

シズク 707 「ごろーん♪ もふもふー♪」

シズク 708 「ティツシユはーつと……あつたあつた」

シズク、ティツシユを数枚取る。

シズク 709 「じゃあ、始めるよー？」

シズク 710 「それ〜♪」

(20秒。耳かきアドリブ。呼吸メインで、時折『ああ』『ん〜』といった声が漏れるイメージ)

シズク 711 「(★20秒)」

シズク 712 「ふふー♪ 今日は逆だねー♪」

シズク 713 「膝枕っ」

シズク 714 「いつもは私がご主人のヒザに寝てるから……」

シズク 715 「えへへ、どーお？ ふにふに？」

シズク 716 「まだまだ運動不足だからね。私の太ももはー、マシユマ
ロみたいに、やわやわなんです〜♪ くす♪」

(30秒。耳かき)

シズク 717 「(★30秒)」

シズク 718 「んー……運動はねー、半分諦めたっ」

シズク 719 「やめたわけじゃないよ？」

シズク 720 「半分っていうのはー……こう、筋肉をつけるのは、諦め
たって感じ……うん」

しばし間。

シズク 721 「もう半分？ くす♪ ご主人なら分かるんじゃない？」

シズク 722 「運動した後に食べるご飯はー、すごい美味しいんだ
よーっ」

シズク 723 「おっきいハンバーグも食べたいしー……ツナクリームも、
ちゅーちゅー吸いたいしー」

シズク 724 「だから、頑張る♪」

シズク 725 「ジョギングもする……なわとびもする……あとはー、腹
筋とか？」

しばし間。

シズク 726 「あ、今度付き合ってよ♪ ご主人が足を押さえてー、私
は腹筋♪」

シズク 727 「いつもは4回くらいしか出来ないけどー……ご主人に
応援してもらえば、5回に増えるかも♪ くすくす♪」

シズク 728 「いーちい……にーい……さーん……よーん……
」おおおー」

シズク 729 「うう、想像しただけでお腹痛くなってきた」

シズク、自分のお腹をぽんぽん。

シズク 730 「うー」

耳かき再開。

シズク 731 「ん、大丈夫♪ 続けるねー」

(40秒。耳かき)

シズク 732 「(★40秒)」

シズク 733 「ねえご主人、私の浴衣姿、似合うかな」

シズク 734 「えへへ♪ 嬉しい♪」

シズク 735 「頑張って着てみて良かった♪ すぐ崩れちゃったけどー」

(20秒。楽しそうに耳かき)

シズク 736 「(★20秒)」

シズク 737 「ご主人はどっちが好き？ 浴衣の私と、シャツの私♪」

シズク 738 「どっちも？ えー、ぜいたくう」

シズク 739 「でもでも、ご主人って私がどんな服着てても、変なところ見てないっ。」

シズク 740 「どっって、ほら……色々♪」

シズク 741 「ん、ごまかさないでよー♪ 見てるでしょ？」

シズク 742 「胸とかー……太もとかー」

シズク 743 「シャツ一枚で過ごしてる時はー……私が座つてると、足の間から、あそこも見えてるのかなー♪」

シズク 744 「えへへ♪ バレバレだよー♪ 目をそらしてるフリして、ちらちらーって♪ くすくす♪」

《◆右耳/10cm 『鋭いんですよー』で近づく》

シズク 745 「そっとうとご、猫は鋭いんですよー♪ いひひー♪」

《◆右耳/30cm》

シズク 746 「あ、こら、動かないのー♪ 奥も綺麗にするよー？」

(20秒。楽しそうに耳かき)

シズク 747 「(★20秒)」

シズク 748 「んー……私の体ってそんなに良いのかなあ」

シズク 749 「んまあ、私もご主人の手のひらが好きだし、そういうモノなのかな」

シズク 750 「うん。好きだよ？ ご主人の手を見てるとー『あゝ、なでなでされたあい♪』ってなる」

シズク 751 「ドキドキもしちゃう」

シズク 752 「……今だって、太ももに手乗せてるでしょ？」

シズク 753 「うん……すごい、ドキドキしてる……♪」

(30秒。耳かき。ドキドキ)

シズク 754 「(★30秒)」

シズク 755 「太もも……なでなで、してほしいかも……えへ」
なでなで。

(30秒。耳かき。時折、心地よさそうな声)

シズク 756 「(★30秒)」

シズク 757 「綺麗になったかなー」

シズク 758 「んじゃ、お耳ふーってするね♪」

《◆右耳/10cm》

シズク 759 「ふー………」

シズク 760 「ふっ、ふっ……ふー………」

《◆右耳/30cm》

シズク 761 「よし♪、じゃあ反対のお耳もするよー♪、ごろん♪」

主人公、左耳を上に向ける。

《◆左耳/30cm》

シズク 762 「こっちも綺麗にするねー♪、それー♪」

(20秒。耳かき)

シズク 763 「(★20秒)」

シズク 764 「耳かき、上手でしょ♪ いっぱい勉強してるからねー」

シズク 765 「うん♪ 本とか、パソコンとか……部屋にあるものなら、なんでも勉強に使うよ?」

(10秒。耳かき)

シズク 766 「(★10秒)」

シズク 767 「だから、部屋に置くものは、気を付けたほうがいいよー?」
「ご主人が好きな事、どんどん出来るようになって
ちやう」

シズク 768 「ご主人は耳かきも好きだし……こうやってー」

《◆左耳/10cm 不意打ち耳ふー》

シズク 769 「ふー……ってされるのも、大好きだよね♪」

《◆左耳/30cm》

シズク 770 「あはは♪ ビックリした?」

シズク 771 「ごめんね♪ やりたくなっちゃった♪」

シズク 772 「はーい、続きしまーす♪」

(30秒。楽しそうに耳かき)

シズク 773 「(★30秒)」

シズク 774 「ご主人、顔がふにゃってなってる♪」

シズク 775 「さっきの耳ふー、結構効いたのかな♪ えへへ♪」

シズク 776 「そんな顔されたら、嬉しくなっちゃう♪」

シズク 777 「うん♪ ご主人が、ちゃんと癒されてるんだなあっ
て♪」

シズク 778 「頑張って勉強したかいがあるよ♪」

シズク 779	「もっと、耳かきするね♪ ご主人♪」
	(40秒。楽しそうに耳かき)
シズク 780	「(★40秒)」
シズク 781	「ご主人の手のひら、あったかい♪」
シズク 782	「なでなでー……すりすりー……私の太もも、いっぱい あっためて欲しいなー♪」
シズク 783	「あ、くすぐるのはダメだからねー？ くす♪」
	(40秒。時折、心地よさそうな声)
シズク 784	「(★40秒)」
シズク 785	「えへへ♪ 膝の上って気持ちいいよね」
シズク 786	「私の膝枕、気に入った？」
シズク 787	「んふふ♪ 良かったらさ、ご主人がお昼寝したい時、私 の太もも、貸してあげよっか♪」
シズク 788	「ああでも、それだと、私が寝れないね」
シズク 789	「どうしよ」
	(10秒。耳かき)
シズク 790	「(★10秒)」
シズク 791	「ご主人の頭が、私の太ももに来てー」
シズク 792	「私の頭が、ご主人の太ももに来てー」
シズク 793	「こっ……向かい合って寝ればいいのかな」
シズク 794	「んー……なんだか不思議な体勢だね」
シズク 795	「今度試してみる？」
シズク 796	「や……やめとこっか」
シズク 797	「奥のほうも、綺麗にするねー」

(40秒。集中して耳かき)

シズク 798 「(★40秒)」

シズク 799 「あ、お湯そろそろたまったかな」

シズク 800 「お酒飲むの、楽しみだねー」

シズク 801 「どんな味がするんだろ」

シズク 802 「苦いって聞いたことはあるけど、飲んだら楽しい気分になるんだよねっ」

シズク 803 「公園でよく会う猫さん達も、みんなお酒が好きなんだよね。」

シズク 804 「お嬢様の家に住んでる猫さんも、ワインが好きなんだってー♪ オシャレだよね」

しばし間。

シズク 805 「あれ？ ワインじゃなくて、ビールが好きなんだっけ……あ、これって……えへへ、なんでもなーい♪」

(30秒。楽しそうに耳かき)

シズク 806 「(★30秒)」

シズク 807 「よし♪ こっちも終わりー♪」

シズク 808 「じゃあ、ふーってするね♪」

《◆左耳/10cm》

シズク 809 「ふっ、ふっ……ふ——……」

シズク 810 「ふ——……ふ——……」

シズク 811 「くす♪ もっとするっ？」

シズク 812 「じゃあ、あと一回」

シズク 813 「ふっ、ふっ、ふ——……」

シズク 814 「ふ——……」

《◆左耳/30cm》

シズク 815 「はい、おしまい♪」

シズク 816 「うん♪ どういたしましてー♪」

シズク 817 「さてと♪ お待ちかねのー」

《◆左耳/10cm》

シズク 818 「足湯の時間だよー♪」

(07-END 3250文字 410秒)

湯の流れる音、鈴虫の音。

二人は足湯でほのぼの。向かい合って座っている。

主人公、シズクにお酒を注ぐ。

《◆正面/30cm》

シズク 819 「あ、ありがとー、ととととと♪」

シズク 820 「おお、これがお酒……ちよっと緊張する」

シズク 821 「えっと、『乾杯』って言うんだっけ……じゃあ、かんぱーい♪ えへへ♪」

一口だけ。

シズク 822 「んく……あ、美味しい♪」

一気に飲み進む。

シズク 823 「んく、んく、んく……ぶあゝ♪」

シズク 824 「これ、飲みやすいね♪」

シズク 825 「うん♪ 甘くてー、でもちよっと苦くてー、癖になる味♪」

シズク 826 「ご主人、もう一杯ちようだいっ」

シズク 827 「ん、飲むペース早い？ 大丈夫、次はゆっくり飲むから♪ ちよーだい♪」

主人公、シズクにお酒を注ぐ。

シズク 828 「ありがと♪」

シズク 829 「んく、んく……ぶっ」

シズク 830 「んー、なるほどねー♪ 猫さんがみんな好きになる理由、分かった気がする」

シズク 831 「うん。人間になったら、お酒は一回飲んだほうがいいよーって、猫の間で噂になってるの」

シズク 832 「んく、んく……はあ♪ 確かに、これは絶対飲まなきゃダメだねー♪ えへへ♪」

シズク 833 「んー、でも、このお酒、なんだか懐かしい味がするようなー……なんだっけ、これ……んー」

シズク 834 「まあいつか」

シズク 835 「んく、んく、んく……ふあーい♪」

シズク 836 「ほら、ご主人も飲んで♪ 入れてあげる♪」

数十分後。

シズク、ほろ酔いになって優しい猫なで声に。

シズク 837 「んく、んく……はあ♪ しやーわせえー♪」

(左右にゆらゆら)

シズク 838 「んく……んく……んへへ……体、ふわふわするう♪」

シズク 839 「気持ちいい♪ あははは♪」

シズク 840 「んー?」

《◆正面/10cm 前かがみになって近づく》

シズク 841 「私は、大丈夫だよおー? みやあ♪ えへへ♪」

《◆正面下/30cm そのまま下へ》

シズク 842 「とういかー……」主人、こういうパンツ履いてるんだく……えへへ♪ ふっー♪」

シズク 843 「くす♪ 今更隠そうとしないでよ♪」

《◆正面/30cm 戻る》

シズク 844 「向かい合って座ってるんだし、最初から見えてたよ？」

シズク 845 「んく、んく……はあ♪ えへへ」

シズク 846 「ご主人も見えてるでしょ？ 私の、浴衣の中♪」

シズク、わざと浴衣をめくる。

シズク 847 「ちらっ……ちらちらっ♪」

シズク 848 「うん、履いてないよー？」

シズク 849 「あ、だから目そらしてるのー？ 好きに見てもいいのにっ♪」

《◆正面/10cm 前かがみになって近づく》

シズク 850 「この後だって、私のこと、好きにするんでしょ♪ うふふーっ♪」

《◆正面/30cm 戻る》

シズク 851 「うう、反応悪いな〜！ ちょっと恥ずかしいじゃんっ」

シズク 852 「んく、んく……ふっ」

足ゆらゆら。

シズク 853 「んー……あったかあい」

シズク 854 「あったかい、けど……熱くなってきた」

しばし間。

シズク 855 「んねえご主人。良かったら、マッサージしてくれない？
足裏♪」

シズク 856 「ご主人の手でマッサージされたら、絶対気持ちいいよね」

シズク、片足を上げておねだり。

シズク 857 「ごしゅじーん、おねがぁい♪ わきわき♪」

シズク 858 「おねだりの、足指ぐーぱー♪ ぐー、ぱー、ぐー、
ぱー……足のマッサージ、お願いしまーす♪」

主人公、トックリを置いてシズクの足に手を伸ばす。

シズク 859 「あ、ありがとー♪」

主人公、シズクの足を揉む。

シズク、くすぐったくて声が出る。

シズク 860 「ふう……ん……ん、あ……はあ……。いひ……んっ……
あはっ……ん、ふう……んっ……くす♪ んう……ん、
あっ……あはは♪」

シズク 861 「ご主人に触られてると……ん……足の指、勝手にぐー
ぱーしちゃう……はあ……ん……ん、あ、指はダメ♪ え
へ、あはは、くすぐったいってば♪ あはは♪ あはは
は♪」

シズク 862 「あーわざとくすぐってるでしょー♪ くすくす♪ 引っ
かくよーっ。」

シズク 863 「うん、足で引っかく！ 出来るか分かんないけど」

シズク 864 「ほら、ちゃんと揉んで？ ギゅっぎゅって」

気持ちよさそうな色っぽい声に変わる。

シズク 865 「んっ……んあ……ん、痛くないよ……そんな感じ……
んっ、んっ……はあ、ん……親指で、押し込んで……ん、
ん……あっ……気持ちいい」

シズク 866 「んっ、ん……それぐらいが、んっ、丁度いいかも」

(20秒。気持ちよさそうな声)

シズク 867 「んあ……んっ……はあ……んっ (★20秒)」

シズク 868 「ご主人じょうず♪」

(20秒。気持ちよさそうな声)

シズク 869 「(★20秒)」

シズク 870 「くす♪ 顔赤くなってる♪ んっ、あ……んっ……どうしたのー?」

シズク 871 「ん、お酒のせい? くす♪ ほんとかなあ♪」

シズク、足を入れ替える。

シズク 872 「まあいいや♪ こっちの足も、おねがい♪」

シズク 873 「んっ……はあ、うう……ん……あっ、んっ♪ はあ……ふう、んっ、はあ」

シズク 874 「ツボって言うのかな……んっ、押されると気持ちいいとこがあるんだよねえ」

シズク 875 「ああ♪ そう、そこが気持ちいい♪ ん……ん♪ ああ♪」

シズク 876 「んあうっ! そこは、変な声が出ちゃうツボだね。やめたほうが」

ツボを押されて変な声。

シズク 877 「ん……んあうっ! んおう? お、おおお? ああああっ」

シズク 878 「ご主人っ、蹴るよ!? ほんとに蹴るよ!?」

シズク 879 「もー、かわいいじゃなくて、真面目にやってっ」

シズク 880 「ほら、おねがい?」

普通のマツサージに戻る。

シズク 881 「ん……んっ、あ♪ んう……ん、んっ♪ えへへ♪ きもちい♪ あう……うう……はあ……ん……ふう」

シズク 882 「くす♪ ご主人って、私の足、好きだよねー♪」

シズク 883 「えー？ 私が猫だった頃、よくぷにぷにーってしてきたじゃん♪ いひひ、ちゃーんと覚えてるよ♪」

シズク 884 「んっ……肉球って言うんだっけ。あれ、結構くすぐったいんだよー？」

シズク 885 「隙を見せたらいつつもぷにぷにしてくてさー♪ 私がちょっと嫌がってたの、気づいてたくせにー♪ くすくす♪」

シズク 886 「んく、んく……ぷあー♪」

《◆正面/10cm 前かがみになって近づく》

シズク 887 「そんなに足が好きならあ……くんくんとか……してみるっ。」

シズク 888 「ほら……いつも私がくんくんしてばっかだしー、たまには」主人も、私の事くんくんしてもいいんじゃない？」

シズク 889 「猫にとつてくんくんは、信頼の証なんですよー♪ くす♪」

シズク、足を差し出す。

《◆正面/30cm 戻る》

シズク 890 「ほら♪ 足裏くんくん♪ おねがはい、ご主人♪」

主人公、恐る恐る顔を近づける。

シズク 891 「あ……ああ」

シズク 892 「えへへ、息当たってる……ん、あはは♪」

シズク 893 「あ……ん……ああ……あ」

シズク 894 「なんだか、いけないことしてるみたい……ん、はあ……大丈夫……これは、『こみゆにけーしょん』だからねっ」

シズク 895 「ん……はあ……ずっと温泉に入ってたから、汚くないはず……ん……びしょびしょだけどね」

シズク 896 「はあ、うう……あ……あう……ん、ああ……はう、んっ……んあ」

シズク 897 「温泉の匂い？ お日様の匂い？ えへ、なにそれ♪
んっ……いい匂いってこと？ えへへ……顔見ながら言わないでよ♪」

（だんだん恥ずかしくなってくる）

シズク 898 「あ……ああ、んっ……ご主人？ ん……さすがに、近すぎない？ あうう……待って……あ、ああ……あっ……はあ……ん、はあ」

シズク 899 「ん、そろそろ……はあ、そろそろ、いいんじゃない？」

シズク 900 「ん、え……もつと？ ん、ああ……ご主人？ もしかしなくても、酔ってるよね……んっ……くんくんしすぎは、ダメだよお……ん……はあ……はあ」

シズク 901 「んえ？ ほっぺ赤い？ あ……ん、違うよ？ これは、んっ……お酒のせいっ……そう、お酒のせい……んっ……ほんとだってばあ」

シズク 902 「はあ……あっ……ご主人……そんなにくんくんしたら……あ……ああ……あっ」

シズク、あわてて足を湯舟に戻す。

シズク 903 「だ、だめっ……もうおしまいっ」

シズク 904 「今日の分はおしまい……ふう……また明日どーぞお」

シズク 905 「うう……お酒お酒」

シズク 906 「んく、んく、んく……はあ……ふう」

シズク 907 「あ……あれ？ ご主人、もしかして♪」

シズク、主人公の浴衣をめくる。

《◆正面下/30cm》

シズク 908 「あ、隠しちゃだーめ♪ 見ーせて♪」

シズク 909 「あは♪ おっきくなってるー♪」

（左右にゆらゆら、見回す）

シズク 910 「すーい♪ パンツの上からでも、元気なのが分かるよ♪」

シズク 911 「つんつん♪ つんつん♪ えへへ♪ なんでおっきくなっちゃったのかなー♪ ん〜」

シズク 912 「（右へ）匂い？ （左へ）足の感触？ それとも」

《◆正面/10cm》

シズク 913 「私、そんなにエッチだった？ くす♪」

《◆正面/30cm 戻る》

シズク 914 「恥ずかしいなら答えなくてもいいよ♪」

シズク 915 「こうなっちゃったのは、誘った私のせいもあるし♪」

シズク 916 「私が責任持ってー、気持ちよくしてあげる♪」

シズク、足を上げて誘惑。

シズク 917 「ご主人の大好きなー、足裏でいいかな♪」

シズク 918 「えへへ♪ 見てー？ 温泉でぽつかぽかだからあ、ふわふわしてて、とっても気持ちいいと思うよ♪」

シズク 919 「あ、おちんちんピクってした♪ 期待してるんだー♪」

シズク、主人公の股間に足を置く。

シズク 920 「いいよ♪ おちんちんにお布団を被せるみたいに……足裏で、ふにゅ〜♪」

シズク 921 「ぽかぽか、ぬくぬく♪ 足裏であったまろうね♪」

下着越しに足でこする。

シズク 922 「ん、ん、んっ……んふふ……硬あい♪ んゝ……ん、んっ♪ ん、んっ……ん、ん、はあ♪」

シズク 923 「あ、パンツ？ あっへへ、脱がし忘れちゃったあ」

シズク 924 「大丈夫、替えはあるでしょ？ もう濡れちゃったし、このまましてみよっか♪」

シズク 925 「ん、ん、んっ♪ ほら♪ パンツ越しだと、おちんちんこすれて、気持ちいいでしょっ。」

シズク 926 「ん、ん♪ ずり、ずり♪ ふにゆ、ふにゆ♪ ずりゆ、ずりゆ♪ ずりゆゝ♪ んっ、んっ♪ はあ、はあ♪」

シズク 927 「知ってる？ 猫がご主人を、『ふみふみ』っするのねー……んっ、こ主人に、いっぱい甘えたいからなんだよーっ。」

シズク 928 「えへへ♪ ほんとだってば♪ んっ♪ こ主人のことが好きだからあ……ん、構ってほしくて、『ふみふみ』するのっ。」

シズク 929 「ん、んっ♪ 右足で強めにふみふみしたほうがいいかなー……ん、ん、んっ♪ はあ、ん、んっ♪」

シズク 930 「ずり、ずり♪ ふみ、ふみ♪」

シズク 931 「気持ちいい？ ん、えへへ♪ でも、あんまり動いちゃダメだよー？ ん、ん♪ 足裏のお布団から、逃げちゃダメっ。」

シズク 932 「ん、んあ、ん、んっ♪ はあ、ん、んっ♪ ふう、ん、んっ♪」

シズク、足を入れ替えて左足で撫でる。

シズク 933 「今度は左足ー♪」

シズク 934 「ん、んっ♪ んゝ……左足は、んっ、ちょっと不器用かも……んっ……ん、ん、あっ、おちんちん逃げちゃう……んしょ……えへへ♪ ん、ん、んっ♪ はあ、う、ん♪」

シズク 935 「ご主人はー、右足と、左足……んっ、どっちが好きー？ん、んっ♪」

シズク 936 「えへへ♪ 言うと思ったー♪」

シズク 937 「いいよ♪ 今度は両足一緒に、えいっ♪」

両足で優しくこする。

シズク 938 「んあ、んっ、んっ♪ はあ♪ ん、ん、んっ♪」

シズク 939 「あはっ、おちんちんすごい♪」

シズク 940 「見てーご主人♪ びしょ濡れのパンツがー、ぴたあーって張り付いてー、んっ♪ おちんちんの形、浮き上がってる♪」

シズク 941 「はあ、んっ……くす♪ おちんちん、どんどん大きくなってるの、んっ、パンツの上から、バレバレだね♪」

シズク 942 「はあ、はあ♪ そんなに気持ちいいんだー♪」

シズク 943 「ん、んう、ん、んっ♪」

シズク 944 「腰も動いちゃって……ん、それだと、足裏におちんちんこすりつけてるみたいだよ？」

シズク 945 「あははっ♪ くすぐたいよおご主人♪」

シズク 946 「ん、えへへ♪ 腰、勝手に動いちゃうの？ くす♪ そっかそっか♪ 気持ちいい証拠だねー♪」

シズク 947 「うっよ♪ 私の足に、もっと甘えて♪」

シズク 948 「はあ、腰を動かして、足裏に、おちんちんでおねだりするの♪」

シズク 949 「はあ、ん、んっ♪ ふう、んっ、んっ♪」

シズク 950 「その調子、その調子♪」

シズク 951 「私の足、あったかい？ んっ……温泉であつたためた足だもん♪ はあ……ぽかぽかで、びしょ濡れの生足♪ なでなでされて、おちんちんも喜んでるね♪ はあ、はあ♪」

シズク 952 「足の感触でよく分かるよ♪ ビクンビクンっ♪ すっっい喜んでる♪」

シズク 953 「私の足で、おちんちん、喜んじやつてる♪ えへへ♪」

シズク 954 「ん、はあ、はあ♪ ん、ふう、はあ、はあ♪」

シズク 955 「おちんちん♪ はあ♪ おちんちんすごい♪ ん♪ はあ、ん、ん♪ ふう、ん、んっ♪」

シズク 956 「でも、さすがに苦しそうだね。パンツ脱いじやおつか」

シズク 957 「ご主人、ちよっと足閉じて？」

シズク 958 「このまま脱がせるかなー」

シズク、主人公の下着を脱がす。

シズク 959 「パンツを両足で掴んでー……んっ……んしょ♪」

シズク 960 「よし♪ 足で脱がせたー♪ どーお？ 器用でしょっ♪」

シズク 961 「ん、なーに？ おちんちん寒い？ くす♪ 分かってるってー♪」

シズク、足を湯舟で泳がせる。

シズク 962 「ちよっと待っててねー♪ ざぶーん♪ ばしやばしやー♪ 足湯でよくあつたためてー……んっ」

両足を湯舟から出す。

シズク 963 「はい♪ 見てー？ 両足、ぽかぽかになったよ♪」

シズク 964 「シズクの足で、あったまる？」

シズク、両足で男性器を挟む。

シズク 965 「寒がりなおちんちんをー、あったかあい生足でー……

ぱつくん♪ えへへ♪ 食べちゃった〜♪」

シズク 966 「じゃあ、動かすよー？」

足で扱いていく。

シズク 967 「ん、んっ♪ はあ、んっ♪」

シズク 968 「ぽかぽかで、柔らかあい生足のサンドイッチ♪

はあ……足裏の感触も、直接だとよく分かるかな♪ はあ、
はあ♪」

シズク 969 「ぶにぶにで気持ちいい？ えへへ♪ ご主人がマッサージ
ジしてくれたから、こんなに気持ちいい足になったんだ
よー？ ありがとうー♪ ご主人♪」

シズク 970 「はあ、ん♪ よーくほぐれた、ふわふわで、ちよっと運
動不足な、私の生足♪ いっぱい味わってねー♪」

シズク 971 「はあ、はあ♪ しゅこ、しゅこ♪ しゅこしゅこー♪
しゅこしゅこ♪ しゅこ、しゅこ♪」

シズク 972 「えへへ♪ しゅこしゅこしゅこ♪」

(シズクの発情がどんどん露骨になっていく)

シズク 973 「私の足、もっと好きになっちゃう？」

シズク 974 「えへ、いいよー♪ 大好きになってよ♪ んっ、ご主人
が癒されるなら、毎日ぶにぶにしてもいいから♪」

シズク 975 「はあ、はあ♪ ご主人が発情したらあ、手でも、足でも、
んっ♪ ど」でも使ってー……ご主人の事、気持ちよくし
たあい♪」

シズク 976 「はあ、ん、んっ♪ ふう、う、ん、んっ♪」

シズク 977 「でもご主人はー、私のあそこも好きなのかなー♪」

シズク 978 「えへへ♪ 見えてるでしょー？ 浴衣の中♪ んっ♪
太ももの間のー、割れ目♪」

シズク 979 「足ひらいてるから、んっ、全部見えてる♪ はあ、ん、
んっ♪」

シズク 980 「ねえ」しゅじーん♪ この後どうするー？ はあ、交尾、
するうっ♪」

シズク 981 「ん、んっ♪ えへへ♪ 私もしたあい♪」

シズク 982 「はあ♪ あそこ、もつと見てえ♪ ん♪ おちんちんふ
みふみしてたらあ、こんなに濡れちゃったのお♪ はあ、
はあ♪」

シズク 983 「両手で広げてー、ん♪ はうっ♪ はあ、ん♪ ご主人、
見えるう？ ほら♪ 中もとろとろだよお？」

シズク 984 「はあ、あん♪ ご主人と交尾、すごい楽しみでえ、
んっ♪ ずーっとウズウズしてるのお♪」

シズク 985 「交尾い、交尾したあい♪」

シズク 986 「ん、ん、あっ♪ じーっと見ちゃって、くす♪ ご主人
のエッチ♪」

シズク 987 「この硬あいおちんちんで、私のこと、襲っちゃうの？」

シズク 988 「くすくす♪ だーめ♪ 私が先にい、足で搾っちゃい
まーす♪」

シズク 989 「えへへ♪ その顔、もう我慢出来ないんでしょー？ 出
しちゃえ出しちゃえ♪ 足、速くするよー？」

シズク、足で早く扱く。

シズク 990 「は、は、ん♪ はあ、んっ♪ は、あ、あ、あっ♪
はあ、ふう、ん、んっ、はあ♪」

シズク 991 「早くしゅこしゅこしたら、勢いよく出ちやうのかな♪」

シズク 992 「はあ、ん、んっ♪ 私の体まで、びゅーって飛んできた
りして♪」

シズク 993 「くす♪ どーお、ご主人♪ 私の体まで、飛ばしてみ
るー?」

シズク、陰部を見せつける。

シズク 994 「えへへ♪ じゃあ、こーこ♪」

シズク 995 「あそこ、広げたままにするからあ、ここが当たりだ
よー♪」

シズク 996 「私の大事なところ、ご主人の匂いで、マーキングしてほ
しいなー♪ はあ、ん、んっ♪」

シズク 997 「あは♪ おちんちん、やる気いっぱいだね♪ 頑張れ頑
張れー♪ いっぱいマーキングして♪ 私のあそこに、
ぴゅっぴゅーだよお♪」

シズク 998 「はあ、はあ、ん、ん、んっ♪」

シズク 999 「私も、あそこヒクヒク止まんない♪ かけられちゃう♪
ご主人にいっぱいかけられちゃう♪」

射精へ。

シズク 1000 「はあ、はあ♪ 私にぴゅっぴゅ♪ いっぱいぴゅっ
ぴゅ♪ 頑張つて、ご主人♪ かけて♪ 白いのいっぱい
かけて♪ はあ、はあ♪ 出る、出る、出ちやう、出ちや
う♪ かけて♪ かけて♪ おねがい♪ 私に、いっぱい
かけてえ♪」

シズク 1001 「(射精)は、あっ♪ あ、ああ♪ あ、あ♪ す」
ああ、熱い、あ、ああ♪ ん、あ、ああ♪」

シズク 1002 「目つむっちゃダメ♪ 私を見て♪ もっとかけて♪
はあ、はあ♪ えへへ♪ ほら♪ いっぱい♪ はあ、
もっと♪ もっとお♪」

勢いが収まっていく。

シズク 1003 「はあ、はあ……あ、あっ……ぴゅっぴゅ……ぴゅっ
ぴゅー……まだ出てる……す」ーい……はあ……はあ

シズク 1004 「全身、マーキングされちゃった……えへへ♪」

シズク 1005 「足裏も……太ももにも♪ あそこも、ぐっちよぐちよ
シズク、体についた液体を取って少し舐める。

シズク 1006 「ん……はあむ……ちゅ……ちゅぱ」

シズク 1007 「くす♪ ごしゅじーん、こんなに濃いの出して、あとで
交尾出来るのー?」

シズク 1008 「ん、聞いてるー?」

ぐったりする主人公に、シズクが呼びかける。

《◆正面/10cm》

シズク 1009 「(左)ごしゅじーん、(右)大丈夫ー?」

シズク 1010 「あー、だいじよばないねー」

シズク 1011 「あはは……足だと加減しづらいね……搾りすぎちゃっ
た」

(08-END 5262文字 40秒)

深夜、静かな寝室。

いつもと違う布団の上で、二人は寄り添い、ひそひそと言葉を交わしている。

《◆正面/30cm》

シズク 1012 「うん、大丈夫」

シズク 1013 「まだちょっと、ふわふわしてるけど」

シズク 1014 「はあ……ふう……」

シズク 1015 「さっきのお酒、よく見たら……またたび入ってた」

シズク 1016 「うん……ドキドキしてるのって、そのせいか……
はあ」

シズク 1017 「お水も飲んだんだけどね……ふう」

シズク 1018 「ご主人……落ち着くまで、ぎゅーってさせて？」

シズク、胸の中でもぞもぞ。

《◆正面やや下/10cm 主人公の胸に抱きつく》

シズク 1019 「ん……はあ……ふう……はあ……はあ……ん、はあ」

シズク 1020 「あ、交尾どうしよっか」

シズク 1021 「んー……無理しなくても大丈夫だよ。ご主人、今日いっぱい出しちゃったし」

シズク 1022 「ほら、マンネリにも気を付けないと。えへへ」

シズク 1023 「ん、したくないってわけじゃないよ？」

シズク 1024 「んー……したい……したい、けど……家じゃないし……
夜中だし……あまり声出したら、迷惑かも」

シズク 1025 「……宿のお布団も、濡れちゃうと思うし」

シズク 1026 「だから、今日は我慢してみる。家に帰るまで、我慢」
シズク 1027 「ん、私だって我慢出来るよー?」

シズク 1028 「ご主人にダメって言われたら、大好きなツナクリームも我慢出来るし」

シズク 1029 「ご主人と交尾するのも……我慢出来るもん」

シズク 1030 「私はそんな、えっちな猫じゃないですよーだ♪
くす♪」

シズク 1031 「ほら、寝ちやお? 朝になったら、スッキリしてるはずっ」

シズク 1032 「うん。おやすみ、ご主人」

しばし寝息。

(20秒。寝息。でも眠れなさそうな様子)

シズク 1033 「すー……すー……ん……はあ……はあ……
(★20秒)」

シズク 1034 「んー」

主人公、シズクの様子が気になって見る。

シズク 1035 「あ、起こしちゃった?」

シズク 1036 「ああいや、落ち着かなくて」

シズク 1037 「ん、なでなでしてくれるの? えへ、ありがと」

シズク 1038 「そしたら、眠れるかも……おねがい♪」

主人公が優しくシズクを撫でる。

最初は心地よさそうなシズクだが、だんだん甘い
声が目立ってくる。

(15秒。寝息。撫でられて心地よさそうな声)

シズク 1039 「ん……う……ん……ふう (★15秒)」

(20秒。寝息。甘い声に変わる)

シズク 1040 「はあ……あ……ん……はあ、ん (★20秒)」

シズク 1041 「ご主人……指……指もちょうだい？」

シズク、口を開けて指をおねだり。

シズク 1042 「あー♪ あー……あゝ……あむ♪」

舐め方が妙にいつもより色気づいている。

(30秒。指ちゅぱ。明らかに発情している感)

シズク 1043 「んちゅ……ん、ちゅぷ……れる、れえる (★30秒)」

《◆右耳やや下/10cm 首筋へ》

シズク 1044 「はあ……はあ……くんくん……くんくん」

シズク 1045 「あ、私の匂い、ちゃんと残ってる♪」

《◆左耳やや下/10cm 首筋を移動しながら》

シズク 1046 「くんくん……くんくんくん」

シズク 1047 「えへへ、いっぱいマーキングしたもんね♪」

シズク、そのまま首筋をゆつくり舐める。

シズク 1048 「ん、ちゅ♪ あむ、ちゅ……れえる、れる……れろれ

る……ちゅ、ちゅぱ……れえるれる……れる、ちゅ」

シズク 1049 「んぷぷ……」っしゅじーん♪」

シズク 1050 「ああむ……れえる、れえる、れろれる……ちゅ、れ

る……はむ、ちゅ……れるれる……れえろ」

《◆右耳や下／＼〇〇首筋を移動しながら》

シズク 1051 「えへ、呼んでみただけー♪」

シズク 1052 「ああむ♪ れえるれる、ちゅ、れえろ……れる、れる……ちゅ、ちゅ……ちゅー……れるれるれる」

シズク 1053 「ん、汗かいてる」

シズク 1054 「はあむ……れえる、れる、れろ……ちゅ、ちゅ……れえる、れろれる、れえる……あむ、れろれろ、れえる」

《◆右耳／＼移動しながら》

シズク 1055 「ちゅぱ……はあ……はあ……」

シズク 1056 「ん、あとちょっとだけ……ちよっとだけしたら、落ち着くから……はあ……はあ……」

シズク、有無を言わず、耳を舐める。

(30秒。耳舐め。ゆっくり、でも興奮気味に、

吐息が多く混じるような舐め)

シズク 1057 「れえる、れえる、れえろ……はあ、れる、れろ

(★30秒)」

シズク、主人公の股間をまさぐる。

シズク 1058 「んー？ んふふ♪ れる、れる♪ えへ、硬あい♪」

シズク 1059 「れえる、れえろ♪ どうしたのー？ はあ、浴衣の中、膨らんでるー♪」

シズク 1060 「れるれるれる……ちゅ、れる……はあむ、れるれろ」

シズク 1061 「くす♪ ダメだよー？ ご主人も、がーまーん♪」

(30秒。耳舐め続き。主人公の反応を見て楽しげに微笑んだり)

シズク 1062 「はあ、れえる、れろ(★30秒)」

シズク 1063 「くす♪ まあ、ご主人がどうしてもって言うなら、して
もいいよ♪ どーするっ。」

シズク 1064 「え、しない？」

シズク 1065 「え、ほんとに？ え、え、家まで、我慢？」

困った様子。

シズク 1066 「うう……」

シズク 1067 「しよお？ しよーよお」

シズク 1068 「ごめんね？ やっぱり、我慢出来ない」

シズク 1069 「ご主人と、交尾……エッチ……エッチしたい」

シズク 1070 「おねがい……エッチしよお？」

耳舐めしながら誘惑。

シズク 1071 「ん……するって言うてくれるまで……はあむ♪」

シズク 1072 「れる、れる、れる……ちゅ、れえる、れる」

シズク 1073 「しよお？ れえる、れる、れる……このおちんちんも、
はあ、気持ちよくなるよ？ れえる、れるれる、ちゅぱ」

シズク 1074 「私の中に、種付け♪ びゅー♪ びゅーびゅーびゅー♪
びゅっびゅ♪ びゅっびゅー♪ えへへ♪ したいで
しょっ。」

シズク 1075 「れえる、れるれる、れえろ……♪」

シズク 1076 「ね？ エッチしよ♪」

シズク 1077 「する？ えへへ♪ うん♪ しよ♪」

《◆正面/10cm》

シズク 1078 「はあ……でも、しーっだよね。夜中だから、しーっ♪」

《◆左耳/10cm》

シズク 1079 「ご主人、浴衣、脱がしてほしいな〜♪」

シズク 1080 「ご主人がきつく締めたから、自分じゃほどけない
よお……おねがい」

主人公、シズクの浴衣の帯をほどいていく。

シズク 1081 「ん……ん……はあ……ん……えへへ……はあ……あ……
はあ……くすっ……はあ」

《◆左耳/0c≡ 不意打ち耳舐め》

シズク 1082 「ああむ♪ れえる、れえる、れるれる♪ ちゅ♪」

シズク 1083 「えへへ、私もご主人の脱がすー♪」

お互いに浴衣を脱がしていく。

(30秒。脱ぎあいつこ。楽しそうに耳舐め)

シズク 1084 「れえる、れるろ♪ ん♪ ちゅー、ちゅぱ♪ くす♪
(★30秒)」

シズク 1085 「もう脱がせたよー♪ えへへ、私の勝ちー♪」

シズク 1086 「早くしないとー、交尾出来ないぞー♪」

シズク 1087 「くす♪ れえる、れえるれる、れるれる、れるれる♪」

シズク 1088 「早くう♪ 早くう♪ れえろ、れるれる♪」

シズク 1089 「おちんちんなでなでしてー、待ってるぞー♪」

シズク 1090 「れえるれる、れるれる♪ はあむ、ちゅ、れるれる♪
はあ、れえる、れえる、れるれる♪」

シズク 1091 「あ、ほどけた？ ありがとう♪」

シズク 1092 「じゃあ、そのまま脱がして……？」

シズク、浴衣をゆつくり脱がされる。

《◆正面/0c≡ 移動しながら》

シズク 1093 「はあ……ん……はあ……ふう……ん……はあ」

自然と口づけをする二人。

シズク 1094 「ちゅ……ちゅ……はあ、ちゅ♪」

シズク 1095 「ご主人もすごいドキドキしてるね」

シズク 1096 「ちゅ……んちゅ」

シズク 1097 「うん……裸でぎゅーってしてると、よく分かるよ？」

シズク 1098 「ちゅ……汗もかいてるし」

シズク 1099 「ちゅぷ、ちゅ……くす♪ 私のお腹に、ちゅ、おちんちんがぐいぐい当たってる……はあ、れる、ちゅ」

シズク 1100 「ご主人も、発情してるんだね♪ ちゅ、ちゅっちゅ」

《◆正面／10cm》

シズク 1101 「はあ……私もね……ずっと、あそこが寂しいの」

シズク 1102 「ふう……奥が、ウズウズしてて……ん……指だと、届かなくて」

シズク 1103 「えへへ……うん♪ さっき試しちゃった」

シズク 1104 「自分の指で、あそこ、イジっちゃった♪」

シズク 1105 「でも……届かないの」

シズク 1106 「はあ……ご主人のおちんちんで、一番奥、いい子いい子してくれないと、だめなの……♪」

シズク、質問しながら、挿入。

シズク 1107 「はあ、はあ……入れていい？ はんっ♪ ん、はあ♪ はうっ♪」

シズク 1108 「えへへ、ごめん、もう入っちゃう……う、はあ♪ 奥まで、ん♪ 全部、入っちゃ、あっ、はあ♪ あ、ああ♪ あ♪ はう♪ はあ、はあ」

シズク 1109 「えへ、そうだったね……声は我慢……ふう」

シズクニ10 「ゆっくり……ゆっくり、動かすね？」

シズク、腰をゆっくり上下。

声は我慢あまり出来ていない様子。

シズクニ11 「ん……ん……はあ、ん……んっ……んあ……あ……

ふう……はあ♪ ん♪ はあ……あっ♪ ん……あ♪」

シズクニ12 「ゆっくりでも、んっ♪ 奥、当たって……はあ……す

い」……きもちい……はあ……きもちいよお……♪」

シズクニ13 「あっ……ん……ん♪ ん、ん……はあ……んっ♪」

シズクニ14 「我慢、無理だよお……んっ♪ これ、んっ♪ 声、出
ちや、はう♪ ん、んっ♪」

シズク、キスをおねだり。

シズクニ15 「いしゅ、じーん♪ ちゅー♪ ちゅー♪」

《◆正面/0cm》（喘ぎながらキス）

シズクニ16 「んっ……んっ……はむ、ちゅ……れる、んっ……んっ♪
はあ、んっ♪ ちゅ、れる、れる、んっ♪ ん、んっ♪
ちゅ、ちゅ♪ ん、ちゅ、れる、れる……んっ♪」

主人公、シズクの腰を強く抱きしめる。

シズクニ17 「あっ♪ それ、だめ♪ 奥、ぐりぐり、だめ♪」

シズクニ18 「あ、あああ♪ すぐ、いっちゃ……いく、いく♪ は、
いく♪ ああああ♪ はあ、はあ♪」

（絶頂しながらキス）

シズクニ19 「んー♪ ちゅ♪ んっ♪ ちゅぶ、ちゅ♪ んー♪
ちゅ、れる、れる、ちゅ♪ ちゅー、ちゅぽっ♪」

《◆正面やや下/10cm》

シズクニ20 「はあ、はあ……今日、ダメかも……すごい敏感になって
る……はあ……すぐ、いっちゃう……♪」

シズク 1121 「お酒のせい？ 我慢したから？ ん、分かんない……分かんない……」しゅじーん、優しく、して♪」

シズク、頭を撫でられて、感度が上がる。

シズク 1122 「はう、ん、あ、あっ♪ あああ♪ 優しくって、言ったけど、あっ♪ はあ♪ なでなでは、だめ♪」

シズク 1123 「あ♪ ああ♪ いっちゃ……いっちゃう♪ なでなで、だけで、んっ、は……あ、あっ♪ いく♪ いくっ♪」

シズク、体を震わせて絶頂。

シズク 1124 「んっ♪ んっ♪ ふう、んっ♪ んっ♪ あうう♪ ん、んっ♪」

シズク 1125 「はあ、はあ……ごしゅじーん……助けてえ♪」

シズク、体も喋りも、既にとろけている。

《◆正面/0c3c ディープキス》

シズク 1126 「ん……ちゅ……れる、ちゅ……ん……ちゅ、れるれる」

シズク 1127 「んー♪ なでなで、きもちい♪ んゝ、ちゅっちゅ♪ れえるれる、ちゅ……ちゅー♪ ちゅっちゅ♪」

シズク 1128 「えへへ、気持ち良すぎて、腰、動かないよお♪」

シズク 1129 「んー、ちゅ♪ 私、重たくなーい？ れる、ちゅ♪」

重たくないよ。

シズク 1130 「くす♪ ほんとー？」

シズク 1131 「じゃあ、遠慮なく、ぐでーんってするよー？」

シズク 1132 「はあむ♪ ちゅー、ちゅぶ、ちゅ……れる、ちゅ」

シズク 1133 「ご主人も、動けなくなっちゃう……朝まで、ずーっと一緒♪」

シズク 1134 「ん、ちゅ……ちゅー……ん、れえる、ちゅ……はあ」

シズクニ35 「私はあ、おちんちんが気持ちよくなる抱き枕だよお？」

シズクニ36 「ちゅ♪ えへへ♪ おちんちん、もつとちよーだい♪

「主人♪ ん、ちゅ♪」

シズクニ37 「ん、はあ♪ また、ぐりぐりっ♪ はっ、うあ♪

あっ♪ 「しゅじ、あっ♪ いく……いく、いく……それ

いく♪ あああ♪ は、あああ♪ あうう♪」

シズクニ38 「ふう……はあ……はあ」

《◆右耳/0cm》

シズクニ39 「はあ……ご主人も、気持ちよくなってよお♪ ああー
む」

(30秒。責め立てる耳舐め。喘ぎ混じり)

シズクニ40 「れるれるれる……ん♪ れえろ、れる、ちゅぱ♪

(★30秒)」

シズクニ41 「はあ、一緒に、猫になろ？ ああむ♪」

(40秒。鳴きながら耳舐め)

シズクニ42 「れえる、れるれろ、れるれる♪ みゃあ♪ みゃあ、あ

む♪ れるれるれる♪ みゃあ、れえる、れる♪

(★40秒)」

シズク、耳舐めの途中で絶頂。

シズクニ43 「ん、あ……いく……また、いっちゃう……は、んっ♪

ん、んっ♪ はあ、んっ、んっ、んっ♪」

シズクニ44 「はあ……はあ……」

《◆左耳/0cm》

シズクニ45 「はあ……いくたびに、あそこ、きゆうくってなって……

おちんちんの形、すごい分かる♪」

シズク 1146 「うん……硬いところも……先っぱの膨らんだところも♪
ご主人の……おちん、ち……全部……きもちい……はっ、
んっ……また、いく……いく、あっ♪」

シズク 1147 「はあ♪ んっ♪ んっ♪ ああ……はあ、はあ……ん、
はあ……♪」

シズク 1148 「ねえ、ご主人……お願いが、あるの」

シズク 1149 「はあ……私に、種付け、して？」

シズク 1150 「このまま、おちんちん、一番奥に、くっ付けたまま♪」

シズク 1151 「もうそこから、おちんちん、離しちゃダメ♪」

シズク 1152 「そのまま、びゅーっびゅーって、するの♪」

シズク 1153 「ご主人の子種、ちょうだい♪ いっぱいちようだい♪
おねがい♪」

ぐりぐり。【ろれつが回らなくなっていく】

シズク 1154 「あ、あんっ♪ ぐりぐり、きたあ♪ あ、あっ♪ 奥♪
奥ぐりぐり♪ いっぱいぐりぐり♪ ずっとして♪ ずっ
と♪」

シズク 1155 「はう、あ、はあ♪ それ、大好き♪ はあ♪ いい子い
い子って、おちんちんなでなで、大好きい♪」

シズク、軽い絶頂を繰り返しながら主人公の耳を
舐める。

シズク 1156 「はあ、はあ♪ あむ♪」

(60秒。軽い絶頂をしながら辛うじて耳舐め)

シズク 1157 「ん、ん♪ れえる、ちゅ♪ んっ♪ れえる、れろれ
る♪ ん♪ (★60秒)」

シズク 1158 「はあ、ん……あ♪ これ、分かる♪ おちんちん膨らんでる♪ いっぱい出そうとしてる♪ 分かる♪ 分かった♪」

シズク 1159 「はあ、大丈夫かなっ……あ、う、あそこ、ずっとキュンキュンして、とまんない♪」

シズク 1160 「これからご主人のでいっぱいにされるんだって、期待しちゃってる♪」

シズク 1161 「はあ、想像して、気持ちよくなって、あ、あっ♪ いっちゃう……いっちゃ……んっ……いく♪ んうっ♪ はあ♪ ふっ♪ ん、ん、んっ♪ はあ、はあ」

シズク 1162 「ごめん、いっちゃった……またいっちゃったあ」

シズク 1163 「ごめんね？ えっちな猫で、ごめんね？ ご主人」

《◆正面/10cm 向かい合う》

シズク 1164 「はあ……うん♪ すき♪ ご主人、すき、すきい♪」

シズク 1165 「はあ、かつこいいご主人も、優しいご主人も、ん♪ えっちなご主人もお……はあ、全部……ぜんぶ……だいしゅきい♪」

(『んみゃゝあ』高く甘えた鳴き声)

シズク 1166 「んみゃゝあ♪」

腰の揺らしが激しくなり、ラストスパート。

シズク 1167 「はあ、ん、んっ♪ はあ♪ ぐりぐり、激し♪ あ、あ、あんっ♪ これ、いっぱい出されちゃう♪ 種付けされちゃう♪ はあ、はあ♪」

シズク 1168 「ちゅー♪ ご主人、ちゅー♪」

《◆正面/0cm いっぱい喘ぎながらキス》

シズク 1169 「んー、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ、れる、ちゅ♪ ん、んっ♪
ちゅ、れるれる♪ はあ、んっ♪ れえる、れる、れる♪
ん、ん、んっ♪ はあ、んちゅ♪ ちゅ、れる、れられ
る♪ んー♪ ちゅぷ、ちゅっちゅ♪ ん、ん♪ れえる、
ちゅ♪」

射精へ。

《◆正面/10cm》

シズク 1170 「ご主人♪ 一緒♪ 一緒がいーい♪ ん、ん、はあ♪
一緒にいっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、いっ♪、い
く……いく、いく、いくいくいく♪ いぐううう♪」

大きな絶頂。

シズク 1171 「あああああ♪」

シズク、体を震わしながら、目をチカチカさせる。

シズク 1172 「はっ……あ……ああ……はっ……はっ……ん、はあ……
はあ……はあ……はあ……ふう」

《◆正面/0cm 優しいキス》

シズク 1173 「ん……ちゅ……ちゅー……ちゅ」

シズク 1174 「ごしゅじーん……はあ」

シズク 1175 「ちゅ……ん、ちゅ……ちゅー……ちゅっちゅ」

シズク 1176 「えへへ……すごかったあ」

シズク 1177 「うん……私、いっぱいしちゃった……はあ……またた
び、ダメだね……んちゅ……これ、ほんと変になっちゃう
かも」

シズク 1178 「はあ……ん、ちゅ……ちゅー……ちゅ、ちゅ」

シズク 1179 「でも、たまにならいいかも……えへへ……ん、ちゅ」

シズク 1180 「ご主人のおちんちんが、元気な時に……またたびエツ
チ……またしようねー」

シズク 1181 「ん、ちゅ……ちゅ、ちゅ……ちゅー……んちゅ……
はあ……ちゅ……ちゅっちゅ……ん、ちゅ」

シズク 1182 「あ……くす♪ おちんちん抜けちゃった」

シズク 1183 「ちゅ……ん、ちゅ……はあ、ちゅ……ちゅー」

シズク 1184 「お布団の中、ちゅ、絶対びしょびしょだよね……ちゅ」

シズク 1185 「えへへ♪ しーらない♪ ちゅ……ちゅっちゅ♪」

シズク 1186 「ん♪ ちゅ……ちゅっちゅ……ん……ちゅ」

シズク 1187 「そろそろ降りる?」

シズク 1188 「ん、乗ったままでいいの? 苦しくない?」

シズク 1189 「えへ、軽い軽いつて、言うねーご主人♪」

嬉しそうにキスを迫る。

シズク 1190 「んー♪ ちゅ♪ ちゅっちゅ♪ んふふ♪ ん♪
ちゅっちゅ♪ ちゅー♪ ちゅ♪」

シズク 1191 「じゃあ、このままぎゅーってして寝るー♪」

《◆右耳/0cm 抱きつく》

シズク 1192 「ぎゅーー♪」

シズク 1193 「えへへ、あったかいでしょ♪ 猫は、あったかいんだ
ぞー♪」

シズク 1194 「このまま私を、お布団にしてもいいよ?」

シズク 1195 「ぎゅううー♪」

ほっぺキス。

シズク 1196 「ん……ちゅ……ちゅ……ちゅ、ちゅ♪ はあ、ちゅ♪」

シズク 1197 「あ、ごめんね。ちゅーしてたら寝れないよね」

シズクニ98 「んー、我慢っ……がーまーんー」

シズクニ99 「（呼吸）……（呼吸）……」

シズクニ200 「ちゅ……ちゅ……えへへ……ちゅっちゅ……ちゅ……

ちゅ、ちゅ……ちゅー……ちゅっちゅ♪」

シズクニ201 「ちゅー……ちゅっちゅ……はあ……ちゅ……ちゅー……

ちゅっちゅ……ちゅ……ちゅ……ちゅ……ちゅ、ちゅ……ちゅ」

（フェードアウト）

（09-END 4741文字 305秒）

小鳥のさえずり。いつもと違う部屋で迎える朝。

シズクは一足先に起きて、荷物をまとめている。

《◆正面/50cm》

シズク 1202 「ん、しょ……忘れ物無いかな」

シズク 1203 「ん……あ、パンツ……干したんだった」

シズク 1204 「これで全部かな……よし、準備おっけー」

主人公の元へ歩く。

《◆◆正面/10cm》【「」から小声】

シズク 1205 「あとはー、ご主人を起こすだけー♪ くす♪」

《◆◆左耳/0cm 優しく耳舐め》

シズク 1206 「おーきーて♪ はあむ♪ れえる、れる、れる……ちゅぽ♪」

シズク 1207 「えへへ♪ おはよーご主人♪」

シズク 1208 「れえる、れる、れる……ちゅぽ♪ こうやって、優しく舐めればー、れえる、れる♪ ビックリしないでしょ?」

シズク 1209 「あむ♪ れえる、れる、れる♪」

シズク 1210 「でも、あんまりこうやってたら、元気になっちゃうかな……ちゅ、れえる、れる♪」

シズク 1211 「んふふ♪ 家帰ってからね?」

《◆◆正面/10cm》【「」から普通の音量】

シズク 1212 「そういえばさっきね、ベランダに猫さんがいたよ?」

シズク 1213 「うん、昨日と同じ猫さん」

シズク 1214 「いっぱいお話したー♪」

シズク 1215 「昨日はごめんねーって話とー……えへへ、他の話もした♪」

どんな話？

シズク 1216 「えー？ どんな話かは、秘密♪」

シズク 1217 「女の子同士だよ？ ぷらっぱしーがあるからねっ」

シズク 1218 「私は口が堅いのだー♪」

ツナクリーム。

シズク 1219 「え、今ツナクリームって言った？」

シズク 1220 「こしゅじーん？ 食べ物で釣るのは、悪いことだと思うなあ」

シズク 1221 「……じゃあ、ここだけの話なんだけど」

シズク 1222 「昨日お風呂入ってた時、猫さん追い払っちゃったでしょっ。」

シズク 1223 「あの後猫さん、仲間を呼んで戻ってたんだって」

シズク 1224 「うん。入口のほうで、ずっと覗いてたらしいよ？」

シズク 1225 「でも、その時私たちがしてたのって、ほら……ねえ？」

シズク 1226 「えへへ……猫さん達、けっこう興味津々みたいで、『何してたのー？』っていっぱい聞かれちゃってさ」

シズク 1227 「んまあ、猫さん達も将来人間になるかもしれないし？ 意味くらいは教えてもいいかなーって思っ……色々教えちゃった」

シズク 1228 「そしたらどんな話はずんじやって……どんどん濃厚になって……エッチな話をいっぱいして……今に至りまーす……」

……。

シズク 1229 「んあ、そんな目で見ないでよお」

シズク 1230 「しょうがないじゃん。みんなから褒められたら、応える
しかないでしょ。」

シズク 1231 「『師匠！ 師匠！』って呼ばれ始めちゃって、実質この
宿は私の縄張りだよー」

もしかして昨日のことも。

シズク 1232 「え？ 昨日の交尾？」

シズク 1233 「やや、話してないよー？ 話してない」

（小声）

シズク 1234 「ぐりぐりが良かったとか、話してない、うん」

シズク 1235 「そうだ！ こんな話するために起こしたんじゃない！
」主人、そろそろ出る時間だよ？」

主人公、飛び起きる。

《◆正面/30cm》

シズク 1236 「あはは♪ ご主人は寝すぎだよ」

シズク 1237 「もう帰る支度済ませたから、着替えちゃってー」

済ませたの？

シズク 1238 「うん。ご主人の荷物はそこー。で、着替えはこれー。は
っ。」

主人公、服を受け取って着替える。

シャツのボタンをパチン、パチン。

シズク 1239 「ん？ いいのいいの♪ 旅行で癒してもらった分、今日
は私が頑張るから♪ えへへ、お返ししなきゃね♪」

《◆左耳/〇〇〇移動しながら》

シズク 1240 「それにー……」

【ここから囁き】

シズク 1241 「お腹の中、まだあったかいよ♪」

シズク 1242 「昨日はいっぱい頑張ってくれて、ありがと♪ ご主人♪」

【ここまで囁き】

《◆正面/30cm》

シズク 1243 「くす♪ さ、帰る帰る♪ いつもどおり、ご飯作らないと♪」

二人、荷物を持って準備。

シズク 1244 「今日は何作ろっかなー」

シズク 1245 「何かリクエストあるー?」

シズク 1246 「あゝ、肉じゃが♪ そういえば言ってたねー♪」

シズク 1247 「じゃあ、帰りにスーパー寄らなきゃ……ちようど今日安いかもー」

シズク 1248 「あーあと、ツナクリームも買わないとね♪ えへく♪」

(フェードアウト)

(10-END 1066文字)

《◆左耳/0c≡ 耳舐めで起す》

シズクアラームその1『いつもどおり』

シズク 1249 「はあーむ♪ れえる、れる、ちゅぱ♪」

シズク 1250 「起きた？ えへへ♪」

シズク 1251 「今日も一日、いつもどおり、よろしくね♪ ご主人♪」

シズクアラームその2『元気が無い時』

シズク 1252 「ああーむ♪ れろ、れる、ちゅぱ♪」

シズク 1253 「おはよ♪ ん、ご主人、元気無いね。大丈夫？」

シズク 1254 「ちゅ♪ これで元気になるかな？」

シズク 1255 「もっと？ ちゅ、ちゅ、ちゅ♪ くす♪ 元気出た？」

シズクアラームその3『元気がある時』

シズク 1256 「はあーむ♪ れえる、れるれる、ちゅぱ♪」

シズク 1257 「おはよーご主人♪ お、朝から元気いっぱいだねえ♪」

シズク 1258 「さすが私のオス♪ かっこいいぞー♪」

シズク 1259 「今日も一日、思いっきり頑張ってるね♪」

シズクアラームその4『！？：！？』

シズク 1260 「ああーむ♪ れえる、れえる、ちゅー、ちゅぱ♪」

シズク 1261 「おっはよ、ご主人♪ えっちしよ♪」

(11-END 230文字)

12.

「やまはる様フリートーク

(ALL-END 29410 文字 ページ 1345 巻)